

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アジア観光論 B（Asian Tourism Studies B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 21世紀、世界はアジアを中心に大交流時代に突入する。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動基準を学ぶ。									
授業目標： アジアの文化を学び、アジアの人々と交流ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	アジアの政治：開発独裁国家が発展した理由を学び、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	アジアの経済：先進国がアジア投資を拡大した背景を学び、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	アジアの女性：人身売買、国際移住労働などの課題解決策を討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	イスラム世界：名誉殺人が無くならない理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	仏教の浄土思想：悪人ほど極楽浄土に行ける理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ヒンドゥ教の身分制度：カースト制度が無くならない理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	ユダヤ人迫害：ユダヤ人が迫害される理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	偽りのキリスト教：神がアダムのあばら骨からイブを創った理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	神道文化：日本の最高神アマテラスが女性である理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	儒教思想：現在も息づく儒教思想を検証し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	武士道：武士がバラより桜を愛でる理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	客家：客家人から多くのアジアの指導者を排出した理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	風水の科学：江戸の町が風水師の環境学により設計された痕跡を調べ、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	チベット仏教：輪廻転生の政治利用を検証し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 藤岡信勝著「教科書が教えない東南アジア」扶桑社 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40％）、定期試験（60％）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アジア文化研究 A（Asian Cultural Studies A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動の基準を学ぶ。									
授業目標： アジアの文化を学び、アジアの人々と国際交流ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	アジアがわかる(Ⅰ)：アジアの政治体制やアジア民族を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	アジアがわかる(Ⅱ)：アジアの経済動向やアジアの貿易を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	アジアの女性たち：アジアの女性指導者、人身売買を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	イスラム文化：イスラム教徒の世界観や他の宗教との関係を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	仏教文化：輪廻転生、仏教の教えなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ヒンドゥー教：カースト制度、サティ、ダウリ、幼児婚を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	ユダヤ文化：旧約聖書、バルフォア宣言、ユダヤ人を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	キリスト文化：新約聖書、宗教改革、キリスト教の矛盾を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	神道文化：穢れと差別、言霊、怨霊信仰、天皇崇拝を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	儒教文化：批林批孔、位牌のルーツ、忠孝一致を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	武士道：武士道と騎士道、名誉、切腹、内助の功を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	客 家：流浪の民、男女平等の中の貞女、客家系財閥を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	風 水：陰陽五行、風水都市、五行早生を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	チベット仏教：ダライ・ラマ14世、中道のアプローチを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 御堂龍児著「風水の秘密」 ごま書房 ￥866＋税 2. 大井功著「チベット文化を読み解く」 祥伝社¥780＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40％）、定期試験（60％）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アジア文化研究 B（Asian Cultural Studies B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの現状と課題を学ぶ。									
授業目標： アジアの課題を知り、解決策がわかる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	アジアの水問題：水不足と水汚染、地下水の危機、国際河川、水道の民営化を考察し、討議する。					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
2	タクシンと国王：タクシン逃亡、クーデター、軍の利権を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	麻薬文化：阿片戦争、日本と阿片、マリファナと喫煙を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	人身売買：子供の誘拐、臓器売買、ベッドファイルを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	アジアのリゾート：リゾート開発と観光文化を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	アジアの世界遺産：世界遺産リストの問題点を考察し、討議する。（アンコール・ワット、タージマハルなど）					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ロングステイ：日本人移民、シルバーコロニア計画、海外ロングステイを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	途上国観光：途上国の観光資源、観光の波及効果を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	華 人：アリババ商法、プリプミ、ペラナカンなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	貧 困：物乞いと宗教、薬物依存、児童労働などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	白人略奪の歴史：マゼランの海賊行為、イエズス会と殺戮などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	アジア史の真実：大英帝国とインド、日露戦争の意味を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	東南アジア史：経済発展、独立、開発独裁を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	シンガポールの過去・現在：政治的安定と高い経済水準を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	パレスチナ問題：イギリスの三枚舌外交の結末を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 柴田明夫著「水戦争」 ¥760＋税 2. 山下清海著「チャイナタウン」 丸善 ¥2,300＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40％）、定期試験（60％）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義										
授業科目(英文)	アフリカ文化研究 A（Introduction to African Cultures A）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	川添 裕子																		
履 修 条 件	前提科目	なし																	
	そ の 他	高校レベルの地理・世界史の知識。Google Classroom 利用。																	
授業概要： 人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、東アフリカと南部アフリカを中心に、アフリカの多様性、植民地にされた経験、困難と可能性について学ぶ。理解度はリアクションペーパー・小テストで確認する。																			
授業目標： 1. アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。 2. 東、南部アフリカの歴史的経験、現在について理解する。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
○			◎																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1・2	人類誕生、進化、認知革命、移動の歴史について学ぶ。「人種」概念の社会的構築性から外見に対する思い込みを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
3・4	アフリカ大陸の多様な生態環境、生業、言語に学ぶ。狩猟採集の現代日本人の働き方について議論する。					事前：高校地理を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
5	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分											
6	東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易。奴隷交易前後、その影響について理解する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
7	東アフリカから学ぶヨーロッパ列強による植民地支配、アフリカ地域の分割の経緯。「民族」創出と固定化について議論する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
8	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分											
9	南部アフリカから学ぶアフリカ諸国の独立、後期植民地主義。旧宗主国の影響の大きさについて議論する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
10	南アフリカについて、アパルトヘイト体制、マンデラ以後の政策について学ぶ。スポーツと植民地支配と独立国家の関係について話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
11	南部アフリカから学ぶ「民族紛争」の背景。冷戦時代の代理戦争、冷戦後の資源競争から考える。資源について議論しあう。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
12	同時代性を理解するために、音楽やダンスや工芸などのポピュラーアートについて学ぶ。自分との繋がりを考える。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
13	多様性、困難、可能性について学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分											
14	総まとめ：アフリカ社会を学ぶ					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、質疑応答 30分											
15	映像鑑賞、ディスカッションを行う。					事前：メディア情報収集 事後：ワークシート記入		視聴 60分、 ディスカッション 30分											
教本： 初回講義日に文献情報を伝えるので受講者は2回目までに各自入手する。										参考文献： そのつど紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える																			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アフリカ文化研究B（Introduction to African Cultures B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校レベルの地理・世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、西アフリカと中央アフリカを中心に、アフリカの多様性、植民地にされた経験、困難と可能性について学ぶ。理解度はリアクションペーパー・小テストで確認する。									
授業目標： 1. アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。 2. 西、中央アフリカの歴史的経験、現在について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	人類誕生、進化、認知革命、移動の歴史について学ぶ。「人種」概念の社会的構築性から外見に対する思い込みを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
3・4	アフリカ大陸の多様な生態環境、生業、言語に学ぶ。狩猟採集の現代日本人の働き方について議論する。					事前：高校地理を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
5	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分	
6	西アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易。奴隷交易前後、その影響について理解する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
7	西アフリカから学ぶヨーロッパ列強による植民地支配、アフリカ地域の分割の経緯。「民族」創出と固定化について議論する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
8	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分	
9	アパルトヘイト体制、マンデラ以後について学ぶ。スポーツと植民地支配と独立国家の関係について話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
10	中央アフリカから学ぶアフリカ諸国の独立、後期植民地主義。旧宗主国の影響の大きさについて議論する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
11	中央アフリカから学ぶ「民族紛争」の背景。冷戦時代の代理戦争、冷戦後の資源競争から考える。資源について議論しあう。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
12	同時代性を理解するために、音楽やダンスや工芸などのポピュラーアートについて学ぶ。自分との繋がりを考える。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
13	多様性、困難、可能性について学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：教科書復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
14	まとめ：アフリカ社会を学ぶ					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、質疑応答 30分	
15	映像視聴：ディスカッションを行う。					事前：メディア情報収集 事後：ワークシート記入		視聴 60分、 ディスカッション 30分	
教本：初回講義日に文献情報を伝えるので受講者は2回目までに各自入手する。 参考文献：そのつと紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義												
授 業 科 目 (英 文)	ア メ リ カ 観 光 論 A (American Tourism Studies A)						科 目 分 類	専 門 科 目													
担 当 教 員	末 次 俊 之																				
履 修 条 件	前 提 科 目	な し																			
	そ の 他	な し																			
授 業 概 要： アメリカは世界有数の観光大国です。世界各地の人々が大学してアメリカを訪問するようになり、アメリカ国内においても訪米外国人観光客から得られる観光収入・輸出額は、アメリカ経済の中でも重要な地位を確立するに至っています。この講義では、アメリカ観光の概要から、観光を支える各産業分野、アメリカ政府（連邦・州・自治体）の観光政策などについて学んでいきます。																					
授 業 目 標： 世界の人々をさまざまに魅了するアメリカについて、その観光分野を幅広く理解する。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																					
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養														
◎			○																		
授 業 計 画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前15分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出																					
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態													
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：配布物復習		講義													
2	アメリカ観光の概要①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
3	アメリカ観光の概要②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
4	アメリカの交通・輸送産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
5	アメリカの交通・輸送産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
6	アメリカの宿泊産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
7	アメリカの宿泊産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
8	アメリカの旅行産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
9	中間テスト					事前：前半の復習 事後：テストの復習		小テストの実施・フィードバック													
10	アメリカの観光政策①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
11	アメリカの観光政策②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
12	アメリカの文化遺産保護					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
13	アメリカのスポーツ産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
14	アメリカのテーマ・パーク産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
教 本： 特に指定はありません。										参 考 文 献： 授業ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。											
成 績 評 価 の 方 法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																					
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 世界有数の観光大国であるアメリカには、人々を魅了する観光資源が豊富に存在します。アメリカ各地の観光資源がどのように開発、活用され、またどのような産業が支えているのか、アメリカ観光の概要を知ることができます。興味があれば受講してみてください。																					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																					

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ア メ リ カ 観 光 論 B (American Tourism Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： アメリカは世界有数の観光大国です。世界各国の人々が大学してアメリカを訪問するようになり、アメリカ国内においても訪米外国人観光客から得られる観光収入・輸出額は、アメリカ経済の中でも重要な地位を確立するに至っています。この講義では、アメリカの観光政策と、各州、各自治体の事例について学んでいきます。									
授 業 目 標： 世界の人々をさまざまに魅了するアメリカについて、その観光政策の事例を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前15分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：配布物復習		講義	
2	アメリカの観光政策の概要					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
3	事例①：ハワイ州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
4	事例②：カリフォルニア州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
5	事例③：ニューヨーク州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
6	事例④：ワシントンD.C.					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
7	事例⑤：フロリダ州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
8	事例⑥：アラスカ州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
9	事例⑦：ネバダ州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
10	中間テスト					事前：前半の復習 事後：テストの復習		小テストの実施、 フィードバック	
11	各都市の観光政策：シアトル、フィラデルフィア					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
12	アメリカの国立公園					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
13	アメリカの食文化					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
14	アメリカの博物館・美術館					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義	
教 本： 特に指定しない。					参 考 文 献： 授業ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。				
成 績 評 価 の 方 法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 世界有数の観光大国であるアメリカには、人々を魅了する観光資源が豊富に存在します。アメリカ各地の観光資源がどのように開発、活用され、またどのような産業が支えているのか、アメリカ観光の概要を知ることができます。興味があれば受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アメリカ文化研究A（American Studies A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： それぞれの地域に焦点を当てたテキストに沿って、アメリカ合衆国の歴史と文化について学びます。副教材として図表などのハンドアウトを配布します。									
授業目標： アメリカ合衆国の歴史と文化を学びながら、現代のアメリカについての理解を深めることが目標です。テキストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction: The American Character					事前：なし 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
2	Native American Tribes					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
3	New England					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
4	The Pilgrims					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
5	The Three Northern Rural States and Boston					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
6	Metropolitan New York					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
7	Cosmopolitan New York					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
8	Appalachia					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
9	Thirteen Colonies					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
10	The Southern colonists and Slaves					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
11	The American Music Roots					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
12	Pennsylvania					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
13	The Industrial North					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
14	Middle America: The Prairie and Plain States					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
15	West and East of Middle America					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
教本： Where Are You From?: American Regions J. M. Vardaman 著 音羽書房 鶴見書店 ￥1,900＋税					参考文献： USA: Customs and Institutions: A Survey of American Culture and Traditions A Regents Publication				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回、授業内容を確認するために、設問に解答するようにしてください。復習になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アメリカ文化研究B（American Studies B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： それぞれの地域に焦点を当てたテキストに沿って、アメリカ合衆国の歴史と文化について学びます。副教材として図表などのハンドアウトを配布します。									
授業目標： アメリカ合衆国の歴史と文化を学びながら、現代のアメリカについての理解を深めることが目標です。ハンドアウトとテキストは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction: American Family Life					事前：なし 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
2	Out West: California Gold Rush					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
3	Out West of the Twentieth Century					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
4	Alaska					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
5	European Colonies in America					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
6	How Colonies Differed					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
7	The Pacific Northwest: The First and Second Stage of Immigrants					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
8	The Pacific Northwest: Today					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
9	The Southwest: The Kingdom of New Mexico					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
10	The Southwest: Hispanic Population					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
11	Hawaii					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
12	Federal Government and States' Rights					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
13	Taxes and Textbook Adoption					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
14	Religion in the Regions					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
15	Common Sense and Religion in the West					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
教本： Where Are You From? : American Regions J. M. Vardaman 著 音羽書房 鶴見書店 ￥1,900 + 税					参考文献： USA: Customs and Institutions: A Survey of American Culture and Traditions A Regents Publication				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回、授業内容を確認するために、設問に解答するようにしてください。復習になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	安全・安心の会社法及び関連法（Corporation Law）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他	私法学を併せて履修していることが望ましい。							
授業概要： 現代社会では非常に重要な存在である株式会社の法的構造について、その不祥事防止策やリスク管理の具体的方式などを含めて検討する。以下のように講義形式ではないので、主体的な授業参加がとくに望まれる。									
授業目標： 安心・安全の会社法という法律自体があるわけではない。この授業ではむしろ受講生の皆さんとこの科目が開講されている意義についてともに考えていくことになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	株式会社とはどのような団体かについて検討する					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義90分	
2	株式会社の法的特徴について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
3	株式会社の設立の流れを説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
4	株式制度の多様性について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
5	株主総会のあり方について深い理解を得るためにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
6	業務執行者としての取締役について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
7	業務執行機関としての取締役会について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
8	不正・リスク防止のための内部統制システムについて説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
9	リスク管理体制のあり方について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
10	株式会社のチェック機関について説明できるように代表者に報告してもらう					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
11	チェック機関としての監査役・監査役会について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
12	会計のプロである会計監査人監査について説明できるように代表者に報告してもらう					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
13	株式会社の資金調達について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
14	新株・新株予約権の発行について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
15	組織再編について説明できるようにグループディスカッションを行う					事前：ネットで調べる 事後：授業内容を200字でまとめる		講義40分、ディスカッション30分、まとめ20分	
教本： とくにはなし。六法は必ず持参すること。					参考文献： 授業中に適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（ディスカッションへの参加状況10%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（80%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 上にも記載したが、ディスカッション・報告重視の授業なのでその点を承知の上で出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	安全保障とリスク (Security and Risks)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	国際関係論Ⅰの事前履修が望ましい。							
	そ の 他								
授業概要： 国際関係学の重要分野である安全保障に関し、リスクの観点がどのように取り入れられてきたかについて概説します。前半は、国際関係学での安全保障論の基本的な視点を学びます。次に、社会学の分野から生まれたリスク社会論について検証します。後半は、リスク評価の安全保障への当てはめとして、各安全保障のフィールド（拡大した安全保障）で、リスク論がどのような視点を提示しているかについて見ていきます。									
授業目標： ①安全保障に関する伝統的な脅威論とリスク論の違いを理解する。 ②安全保障の諸分野でどのようなリスクが議論されているのかを知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	国際関係学と安全保障：国際関係学と安全保障論の関係を理解します。安全保障とは何かについても触れます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
3	安全保障と脅威①：安全保障の要素である「脅威」について深く掘り下げてみます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
4	安全保障と脅威②：脅威を中心とした安全保障のモデルを概略していきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
5	リスク社会論①：現代社会におけるリスクとは何かについて紹介します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
6	リスク社会論②：リスクをどう管理するか。リスク・マネジメント論を概略します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
7	安全保障への当てはめ：安全保障へのリスク論の当てはめの状況と実例を紹介します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
8	ミニテスト：前半のまとめをします。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		テストと解説	
9	軍事的安全保障とリスク：現代における軍事安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
10	国内政治要因とリスク：今日の国内政治でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
11	経済的安全保障とリスク：今日の経済安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
12	環境の安全保障とリスク：今日の環境安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
13	社会的安全保障(移民)とリスク：今日の移民問題でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
14	安全保障でのリスク論の限界：安全保障でのリスク論の限界について触れていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
15	安全保障とリスク：まとめ					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		ディスカッション	
教本： 各回ハンドアウトを配ります。					参考文献： 適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（25%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やや高度な議論になりますが、安全保障問題へ関心のある学生の参加を歓迎します。日本国内では他では学ぶことが難しい内容と思いますので、意欲のある皆さんは是非受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	イギリス文化研究A（English Study A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： イギリスは伝統と新しいものが交錯する魅力ある国です。「暮らしと文化」、「変わりゆくイギリス」をテーマにしたテキストを使用し、様々な側面からイギリスの文化と考え方を理解します。さらに日本との違いや共通点を知ることによって自身の視野を広げることにつなげていきます。									
授業目標： 多様性に富んだイギリスの文化を、さまざまな角度から学ぶことによって、異なる文化を考察し、受容する態度を習得することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：シラバスを熟読する 事後：授業の復習をする		イギリスについての基本事項の解説	
2	Lesson 1 Check In and Work Out					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
3	Lesson 2 What will the Weather Be Like?					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
4	Lesson 3 A London without Red Buses?					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
5	Lesson 4 Back to the Future					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
6	Lesson 5 Shop-‘n’-Chat					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
7	Lesson 6 More Than Just a Post Office					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
8	Lesson 7 Off the Beaten Path					事前：Unit 1～6 の復習をする 事後：授業の復習をする		解説、Q & A	
9	Lesson 8 Pubs in Decline					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
10	Leson 9 Dining Out Diversity					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
11	Lesson 10 Afternoon Tea					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
12	Lesson 11 The Beatles Are Forever					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
13	Lesson 12 Football: Sport or Business?					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
14	Lesson 13 The Royal Family or Tv Melodrama					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
15	Review					事前：Unit 7～13の復習 事後：授業の復習をする		解説、Q & A	
教本： Gateway to Britain（南雲堂）					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	イギリス文化研究 B (English Study B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： イギリスは伝統と新しいものが交錯する魅力ある国です。「暮らしと文化」、「変わりゆくイギリス」をテーマにしたテキストを使用し、様々な側面からイギリスの文化と考え方を理解します。さらに日本との違いや共通点を知ることによって自身の視野を広げることにつなげていきます。									
授業目標： 多様性に富んだイギリスの文化をさまざまな角度から学ぶことによって、異なる文化を考察し、受容する態度を習得することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		解説	
2	Lesson 14 Preserving Britain					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
3	Lesson 15 Britain's Special Character					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
4	Lesson 16 British Universities					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
5	Lesson 17 A Miniature British Icon					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
6	Lesson 18 On the Job					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
7	Lesson 19 Margaret Thatcher's Legacy					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
8	Lesson 20 A Vicious Cycle					事前：Unit 13～19を復習 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
9	Lesson 21 Aliens and Advertisements					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
10	Lesson 22 The BBC Then and Now					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
11	Lesson 23 Customer Services					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
12	Lesson 24 Mind the Gap					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
13	Lesson 25 Media Mogul					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
14	Lesson 26 Gateway to Britain					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
15	Review					事前：Unit 14～26を復習 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
教本： Gateway to Britain（南雲堂）					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	異文化共生論 A (Intercultural Understanding A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 異文化共生論の授業では、私の台湾居住16年(私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で11年准教授)の経験から得た実践的な異文化共生論も説明する。日本の在留外国人数は約273万人(うち、中国人約76万人、韓国人約45万人、台湾人約6万人、米国人約6万人)で、日本の婚姻16組のうち、1組が国際結婚である。異文化をもつ外国人と共に生きていく異文化共生論を論じ、複雑な現象を簡単な言葉で論じるので、わかりやすい。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっている。異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論(台湾文化共生論)を説明する。									
授業目標： (1)異文化共生論の基本的概念を説明できるようになることを目標とする。(2)多文化共生国家となっている日本の現状理解を目標とする。(3)外国人と共生する異文化共生論の考察を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	異文化共生論の授業内容の説明をする。自己紹介をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：異文化共生論(多様性と同一性)の下読みをする。事後：異文化共生論(多様性と同一性)のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。	
2	異文化共生理論(葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論)の説明をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：異文化共生理論の下読みをする。事後：異文化共生理論のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭 Q&A60分。アンケート10分。	
3	異文化共生論の基礎(文化相対主義、ナショナリズム)の説明をする。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：異文化共生論の基礎の下読みをする。事後：異文化共生論の基礎のポイントをノートに書く。			講義説明20分。口頭 Q&A60分。アンケート10分。	
4	異文化適応(カルチャーショック、逆カルチャーショック、適応曲線)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：異文化適応の下読みをする。事後：異文化適応のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
5	外国語・第二言語教育(外国語学習、日本語教育、日本語教師)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：外国語・第二言語教育の下読みをする。事後：外国語・第二言語教育のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
6	思想(儒教思想、仏教思想、神道思想、アニミズム、キリスト教思想)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：思想の下読みをする。事後：思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
7	日本的コミュニケーション(言霊思想、ニューソート哲学、プラス思考)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：日本的コミュニケーションの下読みをする。事後：日本的コミュニケーションのポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
8	日本文化の価値観(和の思想、義理と人情、武士道)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：日本文化の価値観の下読みをする。事後：日本文化の価値観のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
9	日本・東洋の思想(祖先崇拝、輪廻思想)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：日本・東洋の思想の下読みをする。事後：日本・東洋の思想のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
10	国際交流(国際交流イベント、国際教育交流、国際交流基金)の説明をする。ディスカッションをする。アンケートをする。				事前：国際交流の下読みをする。事後：国際交流のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。	
11	日本の異文化交流史(儒教・仏教の受容、キリシタンの受容、西欧文明の受容)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：日本の異文化交流史の下読みをする。事後：日本の異文化交流史のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
12	留学(交換留学、留学生30万人計画、留学生寮)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：留学の下読みをする。事後：留学のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
13	国際的な人の移動(国際結婚、華僑と華人、国民国家と主権国家)の説明をする。				事前：国際的な人の移動の下読みをする。事後：国際的な人の移動のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
14	移民政策(国家統合、多様性、国際比較)の説明をする。口頭 Q&A をする。				事前：移民政策の下読みをする。事後：移民政策のポイントをノートに書く。			講義説明80分。口頭 Q&A10分。	
15	異文化共生論のまとめの説明をする。学生の発表を行う。口頭 Q&A をする。アンケートをする。				事前：異文化共生論のまとめの下読みをする。事後：異文化共生論のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭 Q&A10分。アンケート10分。	
教本： プリントを配布する。		参考文献： 加賀美常美代(編著)、『多文化共生論——多様性理解のためのヒントとレッスン』、明石書店、2013年、¥2,640。 松尾知明、『「移民時代」の多文化共生論——想像力・創造力を育む14のレッスン』、明石書店、2020年、¥2,420。 多文化共生キーワード事典編集委員会編、『多文化共生キーワード事典 改訂版』、明石書店、2010年、¥2,200。							
成績評価の方法、評価基準： 第16回目の授業時の期末試験 (40%)、授業態度やレポートや課題への参加や授業への寄与度などの平常点 (60%)。									
学生へのアドバイス： 1. 異文化コミュニケーション論の知識(頭脳の知性)向上、2. 自己効力感(私はできるというプラス思考)向上、3. 人間力(力強く生きていく力、目標達成力)向上。毎回学生の皆さんに A4 の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。学生の皆さんの質問は歓迎する。学習理論の自己効力感(self-efficacy、セルフ・エフィカシー)で「できるという信念があれば、必ずできるようになる」。私伊藤幹彦は自己効力感で学生さんのやる気を引き出し、成績を高める。毎回学生の皆さんに A4 の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授業科目(英文)	異文化共生論 B (Intercultural Understanding B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要：異文化共生論Bの授業では、私が国立台湾大学で3年半で博士号を取得し、1年半研究し、台湾の大学で11年准教授として中国語と台湾語で台湾歴史などの科目を教え、私の台湾居住16年の経験から得た実践的な異文化共生論を説明する。私は専門が台湾の歴史と文化であるので、理論的な異文化共生論つまり台湾文化と儒教思想（孔子の『論語』を基礎とした思想）も説明し、人格を形成し、道徳心を高め、人徳者となる方法を教える。私は心理学と文化人類学の文献も読んでいますので、台湾人の深層心理にある儒教思想も説明する。在日台湾人数は約6万人で台湾の全人口は約2300万人である。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているため、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。									
授業目標：孔子が活躍した紀元前500年以来、『論語』を基礎とする儒教思想が約2500年間にわたって影響力をもち、日本では王仁が『論語』を日本に持ってきて以来、約1700年間にわたって影響力をもち、台湾では漢民族の移民が中国大陆から台湾に移住して以来、約400年間にわたって影響力をもっている『論語』の内容理解を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○１つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	異文化としての台湾文化（台湾の儒教思想、台湾の仏教思想）の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾文化の下読みをする。 事後：台湾文化のポイントを書き出す。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。		
2	台湾の思想（台湾の輪廻思想、台湾の縁起思想）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾の思想の下読みをする。 事後：台湾の思想のポイントを書き出す。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。		
3	孔子の生涯と孟子の生涯の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：孔子の生涯と孟子の生涯の下読みをする。 事後：孔子の生涯と孟子の生涯のポイントを書き出す。			講義説明20分。口頭Q&A60分。アンケート10分。		
4	儒教道徳の五倫五常（父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目）の説明をする。			事前：儒教道徳の五倫五常の下読みをする。 事後：儒教道徳の五倫五常のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
5	『論語』（1）「仁（他者を思いやる心）」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』（1）の下読みをする。 事後：『論語』（1）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
6	『論語』（2）「義（忠義）」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』（2）の下読みをする。 事後：『論語』（2）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
7	『論語』（3）「礼（個人の礼儀と祭祀の儀式）」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』（3）の下読みをする。 事後：『論語』（3）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
8	『論語』（4）「智（智慧）」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』（4）の下読みをする。 事後：『論語』（4）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
9	『論語』（5）「信（信義）」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』（5）の下読みをする。 事後：『論語』（5）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
10	『論語』（6）「君子（人徳者）」の説明をする。ディスカッション（いかにして人徳者になるか）をする。アンケートをする。			事前：『論語』（6）の下読みをする。 事後：『論語』（6）のポイントを書き出す。			講義説明40分。ディスカッション40分。アンケート10分。		
11	『論語』（7）「学（学びに対する態度）」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』（7）の下読みをする。 事後：『論語』（7）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
12	『論語』（8）「孝（祖先や親を大切にすること）」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』（8）の下読みをする。 事後：『論語』（8）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
13	『孟子』（1）「義（正義・道義・大義）」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『孟子』（1）の下読みをする。 事後：『孟子』（1）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
14	『孟子』（2）「仁・義・礼・智の四徳」の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『孟子』（2）の下読みをする。 事後：『孟子』（2）のポイントを書き出す。			講義説明80分。口頭Q&A10分。		
15	異文化としての台湾文化（台湾の儒教思想、台湾の仏教思想）のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：台湾文化のまとめの準備をする。 事後：台湾文化のまとめのポイントを書き出す。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。		
教科書：参考文獻： プリントを配布する。江連隆、『論語と孔子の事典』、大修館書店、1996年、¥5,720。 内野熊一郎（訳）、『孟子』、明治書院、1962年、¥10,120。 津田左右吉、『儒教の研究』第1～3巻（津田左右吉全集第16～18巻）、岩波書店、1988年、¥12,540。									
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時締め切りの期末レポート（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。									
学生へのアドバイス： 1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私にはできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。台湾は親日的で、台湾人は非常に人情味があり、日本人にも台湾人にも儒教思想があるので、日本人と台湾人の習慣の類似点は80%で、すべての在日外国人留学生の中で台湾人が日本人と最も似ており、台湾人は友好的であるので、学生の皆さんは台湾人とよい友達になれる。『論語』を基礎にした儒教思想の目的は、人間関係をよくすることにあり、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができる。儒教思想の授業を通じて、君の徳性を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてください。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論Ⅰ（Intercultural CommunicationⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 異文化コミュニケーション論Ⅰの授業では、アメリカ人やヨーロッパ人やアジア人の異文化コミュニケーションの理論と実践に加え、私伊藤幹彦の台湾居住16年（うち3年半で国立台湾大学で博士号を取得し、うち11年台湾の大学で准教授）の実験の経験から得た台湾人・中国人との異文化コミュニケーションも説明する。異なる文化をもつ人と接触した時、スムーズなコミュニケーションのやり方を理論と実践の双方から論じる。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているの、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。									
授業目標： (1)異文化コミュニケーション論の理論と実践の応用を目標とする。(2)異文化コミュニケーションの理解を目標とする。(3)異文化コミュニケーションの学問的知識の習得を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態	
1	異文化コミュニケーション論の目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論のポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A 10分。アンケート10分。自己紹介30分。	
2	異文化コミュニケーション理論(異文化コミュニケーション・モデル)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：異文化コミュニケーション理論の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション理論のポイントをノートに書く。				講義説明20分。口頭Q&A 60分。アンケート10分。	
3	異文化コミュニケーション論の基礎(文化相対主義、ナショナリズム)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：異文化コミュニケーションの基礎の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの基礎のポイントをノートに書く。				講義説明20分。口頭Q&A 60分。アンケート10分。	
4	異文化適応(カルチャーショック、逆カルチャーショック、適応曲線)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：異文化適応の下読みをする。 事後：異文化適応のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
5	外国語・第二言語教育(外国語学習、日本語教育、日本語教師)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：外国語・第二言語教育の下読みをする。 事後：外国語・第二言語教育のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
6	思想(儒教思想、仏教思想、神道思想、アニミズム、キリスト教思想)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：思想の下読みをする。 事後：思想のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
7	日本的コミュニケーション(言霊思想、ニューソート哲学、プラス思考)の説明をする。			事前：日本的コミュニケーションの下読みをする。 事後：日本的コミュニケーションのポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
8	日本文化の価値観(和の思想、義理と人情、武士道)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
9	日本・東洋の思想(祖先崇拝、輪廻思想)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：日本・東洋の思想の下読みをする。 事後：日本・東洋の思想のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
10	国際交流(国際交流イベント、国際教育交流、国際交流基金)の説明をする。ディスカッションをする。			事前：国際交流の下読みをする。 事後：国際交流のポイントをノートに書く。				講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。	
11	日本の異文化交流史(儒教・仏教の受容、キリシタンの受容、西欧文明の受容)の説明をする。			事前：日本の異文化交流史の下読みをする。 事後：日本の異文化交流史のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
12	留学(交換留学、留学生30万人計画、留学生寮)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：留学の下読みをする。 事後：留学のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
13	移住(国際結婚、華僑と華人、国民国家と主権国家)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：移住の下読みをする。 事後：移住のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
14	多文化共生論(葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：多文化共生論の下読みをする。 事後：多文化共生論のポイントをノートに書く。				講義説明80分。口頭Q&A 10分。	
15	異文化コミュニケーション論のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論のまとめの下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論のまとめのポイントをノートに書く。				講義説明70分。口頭Q&A 10分。アンケート10分。	
教本： プリントを配布する。		参考文献： 石井敏、久米昭元(編)、『異文化コミュニケーション事典』、春風社、2013年、¥7,600。 石井敏、久米昭元、遠山淳、松本茂、平井一弘、御堂岡潔、『異文化コミュニケーション・ハンドブック——多基礎知識から応用・実践まで』、有斐閣、1997年、¥2,420。 石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション——多文化共生と平和構築に向けて』、有斐閣、2013年、¥2,200。							
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時しめきりの期末レポート（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。									
学生へのアドバイス： 1. 異文化コミュニケーション論の知識(頭脳の知性)向上、2. 自己効力感(私はできるというプラス思考)向上、3. 人間力(力強く生きていく力、目標達成力) 向上。学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらい、翌週重要な質問や意見や感想は紹介する。学生の皆さんの質問は歓迎する。頭脳の知性(異文化コミュニケーション論の専門的知識)と感情の知性(人格形成)を学ばせ、人間力(力強く生きていく力、目標達成力)を育成する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論Ⅱ（Intercultural Communication Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要：異文化コミュニケーション論Ⅱの授業では、私の台湾居住16年の経験から得た実践的な異文化コミュニケーション論つまり中国文化と儒教思想を説明する。私は専門が台湾の歴史と文化であるので、台湾人の中にある儒教思想も説明し、道徳心を高めさせ、人格を形成させ、人徳者にならせる。私は国立台湾大学で博士号を取得し、台湾の大学で11年准教授として中国語と台湾語で台湾歴史などの科目を台湾人学生に教えてきた。台湾人とコミュニケーションする際の（理論的には心理学と文化人類学を応用した）異文化コミュニケーション論（台湾文化コミュニケーション論）を論じ、理論面と実践面の両面から台湾人の深層心理も説明する。30年間、私はある台湾人と共生し、多くの台湾人の親友とつきあっているなので、異文化をもつ台湾人と共に生きていく実践的な異文化共生論（台湾文化共生論）を説明する。									
授業目標：世界で最も多くの人々が『聖書』と孔子の『論語』を読んでいる。江戸時代の学者伊藤仁斎は、『論語』を宇宙第一の書と高評価している。『論語』は中国哲学の書で、儒教思想の最重要文献である。『論語』は性善説的な明るさに満ち、心理学の書であり、人間関係をよくし、人徳者になるための書である『論語』の内容理解を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○１つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	異文化としての中国文化(中国の儒教思想、中国の仏教思想)の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：中国文化の下読みをする。 事後：中国文化のポイントを書き留める。			講義説明40分。口頭Q&A 10分。アンケート10分。自己紹介30分。		
2	中国の思想(中国の輪廻思想、中国の縁起思想)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：中国の思想の下読みをする。 事後：中国の思想のポイントを書き留める。			講義説明20分。口頭Q&A 60分。アンケート10分。		
3	孔子の生涯(孔子の家族、幼少期、青年期、壮年期、晩年期)孟子の生涯(孟子の家族、幼少期、青年期、壮年期、晩年期)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：孔子と孟子の生涯の下読みをする。 事後：孔子と孟子の生涯のポイントを書き留める。			講義説明20分。口頭Q&A 60分。アンケート10分。		
4	儒教道徳の五倫五常(父子の親・君臣の義・夫婦の別・長幼の序・朋友の信の五つの道徳、仁・義・礼・智・信の五つの徳目)の説明をする。			事前：五倫五常の下読みをする。 事後：五倫五常のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
5	『論語』(1)(学而、為政)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(1)の下読みをする。 事後：『論語』(1)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
6	『論語』(2)(八佾、里仁)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(2)の下読みをする。 事後：『論語』(2)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
7	『論語』(3)(公冶長、雍也)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(3)の下読みをする。 事後：『論語』(3)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
8	『論語』(4)(述而、泰伯)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(4)の下読みをする。 事後：『論語』(4)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
9	『論語』(5)(子罕、郷党)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(5)の下読みをする。 事後：『論語』(5)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
10	『論語』(6)(先進、顔淵)の説明をする。ディスカッション(いかにして徳性と学問を兼ね備えた人になるか)をする。アンケートをする。			事前：『論語』(6)の下読みをする。 事後：『論語』(6)のポイントを書き留める。			講義説明40分。ディスカッション40分。アンケート10分。		
11	『論語』(7)(子路、憲問)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(7)の下読みをする。 事後：『論語』(7)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
12	『論語』(8)(衛霊公、季氏)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(8)の下読みをする。 事後：『論語』(8)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
13	『論語』(9)(陽貨、微子)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(9)の下読みをする。 事後：『論語』(9)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
14	『論語』(10)(子張、堯曰)の説明をする。口頭Q&Aをする。			事前：『論語』(10)の下読みをする。 事後：『論語』(10)のポイントを書き留める。			講義説明80分。口頭Q&A 10分。		
15	異文化としての中国文化(中国の儒教思想、中国の仏教思想)のまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：中国文化のまとめの準備をする。 事後：中国文化のまとめのポイントを書き留める。			講義説明70分。口頭Q&A 10分。アンケート10分。		
教科書： 参考文献： プリントを配布する。 溝口雄三、池田知久、丸山松幸(編)、『中国思想文化事典』、東京大学出版会、2001年、¥7,480。 吉川幸次郎(訳)、『論語』、筑摩書房、1971年、¥1,540。 宇野精一(訳)、『孟子 全訳注』、講談社、2019年、¥1,859。									
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時締め切りの期末レポート（40%）、授業への寄与度や授業態度などの平常点（60%）。									
学生へのアドバイス： 『論語』を基礎とした儒教思想の授業を通じて、君の道徳心を高め、儒教思想の知識を実践に生かし、君の人間関係をよくしてください。1．異文化コミュニケーション論の知識(頭脳の知性)向上、2．自己効力感(私はできるというプラス思考)向上、3．人間力(力強く生きていく力、目標達成力)向上。台湾は親日的であり、台湾人は儒教思想があるので、非常に人情味があり、日本にも儒教思想があるので、日本人と台湾人の習慣の類似点は80%で、全外国人留学生の中で台湾人が日本人と最も似ており、台湾人は友好的であるので、学生の皆さんは台湾人とよい友達になれる。儒教思想の目的は、人間関係をよくすることから、儒教思想を応用すれば、君の人間関係をよくすることができます。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	異文化論 A（Cross Culture Theory A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校レベルの日本史、世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 異文化とは外国の文化だけを指すわけではありません。日本社会を対象に異文化の視点について学びます。毎回のリアクションペーパー、小テストで理解度を確認します。									
授業目標： 1. 異文化の視点で自文化を捉えることができる。 2. 異文化の視点を日常生活、具体的な実践に応用できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	人類の誕生、進化、移動の歴史について学ぶ。「人種」概念の社会的構築性から、外見に関する思い込みを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
2	日本の在留外国人について学ぶ。神奈川県、厚木市についてグループワークする。					事前：高校日本史を振り返る 事後：復習		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
3	世界の「先住民族」をめぐる動きを概観する。「神々のうた 大地にふたたび」を視聴し、先住民アイヌの人々について学ぶ。					事前：記事、ニュース収集 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
4	「クリスマス」はどのような経緯で世界に拡散したのか学ぶ。					事前：クリスマス経験 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
5	イスラームへの関心が高まっている。「ハラール」（許されていること、もの）に関しディスカッションを行う。					事前：宗教のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
6	日本はある人にとっては異文化である。捕鯨文化を例に、異文化としての日本について学び、ディスカッションをする。					事前：食のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
7	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、テスト 30分	
8	厚木市八菅地区は山伏の里で名高い。山伏に関する厚木市の言い伝えを学び、厚木の異文化に触れる。					事前：厚木のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
9	松蔭大学付近の小野地区には小野小町伝承が伝えられている。小町をめぐる地元住民と松蔭大学生の活動について学ぶ。					事前：小野小町のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
10	聴覚障害があることを手話という外国語でコミュニケーションする人々と捉える。視点としての異文化の意義を学ぶ。					事前：バリアフリー経験 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
11	視覚障害があることを、「見る文化」とは異なる「触る文化」の人々と捉える。視点としての異文化の意義を学ぶ、					事前：バリアフリー経験 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
12	タトゥーについて異文化の視点から分析する意義について学ぶ。					事前：タトゥーのイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
13	美容整形を切り口に日本社会と韓国社会について比較検討する。					事前：美容整形のイメージ 事後：観察		講義 60分、質疑応答 10分、 記述 20分	
14	まとめ					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60分、質疑応答 30分	
15	映像：『瞽女（ごぜ：女性の盲人芸能者）さんの唱が聞こえる』視聴し、ディスカッションを行う。					事前：音楽経験 事後：ワークシート記入		視聴 60分、ディスカッション 30分	
教本： なし。					参考文献： そのつと紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 文献や各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	異文化論B（Cross Culture Theory B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他	高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 本授業は、異文化理解に必要な視点、概念、理論について学ぶ。人類史における異なる集団の出会い、描かれ方、関わり方を、世界史の流れの中で理解していく。理解度については、毎回のリアクションペーパー、小テストで確認をする。									
授業目標： 1. 異文化を理解に必要な視点、概念、理論を理解する。 2. 異文化の視点を、身の周りの具体的な現象の解釈に応用できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	人類の誕生、進化、移動の歴史について学ぶ。「人種」概念の社会的構築性から、外見に関する思い込みを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：観察		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
3	文明の交差点としてのオリент（東洋）について学び、現在メディアで報道されるイメージとの違いを理解する。					事前：高校地理を振り返る 事後：観察		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
4	オリентで、今日につながる学問が発展した経緯について学ぶ。					事前：高校地理を振り返る 事後：観察		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
5	「アラビアンナイト」の形成について学ぶ。各自のイメージを話し合う。					事前：高校世界史を振り返る 事後：アラビアンナイト読解		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
6	大航海時代から帝国主義時代にかけて、世界がどのように動いていったのかを学び、アラビアンナイトの展開と突き合わせる					事前：高校世界史を振り返る 事後：アラビアンナイト読解		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
7	エドワード・サイードの「オリエンタリズム」批判の論点を学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：観察		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
8	小まとめ、小テスト					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60 分、テスト 30 分	
9	ヴェールの着用、ひげを例に、身体の文化的側面、衣装の記号論について学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
10	日本と世界との関わりについて概観した後、「ジャポニズム」について学ぶ。					事前：メディア情報収集 事後：復習		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
11	身体の使い方、あり方の文化的多様性を、「身体技法」、「プロクセミックス」、「身体加工」から学ぶ。エクササイズも行う。					事前：身体のクセ 事後：観察		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
12	グローバリズム、グローカリズムという視点について学ぶ。身近な商品やサービスについてグループワークを行う。					事前：メディア情報収集 事後：復習		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
13	日本研究について学ぶ（『菊と刀』、『タテ社会の人間関係』他）					事前：メディア情報収集 事後：復習		講義 60 分、質疑応答 10 分、記述 20 分	
14	まとめ					事前：疑問点整理 事後：ノート整理		講義 60 分、質疑応答 30 分	
15	映像：『大航海』を視聴し、ディスカッションを行う。					事前：メディア情報収集 事後：ワークシート記入		視聴 60 分、ディスカッション 30 分	
教本： なし					参考文献： そのつと紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 文献や各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 紹介講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	インターンシップ (Internship)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 実習先の受け入れ人数に合わせて、履修人数を制限することがある。授業で、企業での業務実施の前に必要な知識やマナー、企業研究ならびに提出書類の書き方を習得する。就職活動と同じように自分の希望する業種や企業選びなどをインターネットを活用して行う。習得後、夏休みに原則として2～4週間企業で業務する。									
授業目標： 初回の授業で社会人になるために必要なことを学び、夏休み期間中にインターンシップを実施する。実体験することにより、目標を持つことの大切さ、それを達成するための過程、確認と検証、新たな目標の作成を学び、就職活動に役立てる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	インターンシップ履修オリエンテーション					事前：なし 事後：配布資料の見直し		講義	
2	働くってどんなこと？					事前：精読（9-26） 事後：配布資料の見直し		講義・演習	
3	志を考える					事前：志の準備 事後：見直し		講義・演習	
4	インターンシップって何					事前：精読（39-52） 事後：復習		講義	
5	なぜ企業はインターンを受け入れるのか？					事前：精読（53-68） 事後：復習		講義	
6	自分の希望と時期を考える					事前：希望企業等準備 事後：復習		演習	
7	業界研究・企業研究					事前：希望企業等準備 事後：復習		演習	
8	企業人としての心構え 面接練習					事前：資料見直し 事後：資料見直し		演習	
9	社会人になるためのマナー					事前：精読（87-104） 事後：復習		講義・演習	
10	提出書類の作成（履歴書）					事前：資料見直し 事後：資料見直し		講義・演習	
11	提出書類の作成（自己紹介）					事前：資料見直し 事後：資料見直し		講義・演習	
12	提出書類の確認					事前：資料見直し 事後：資料見直し		演習	
13	インターンシップの実施（2～4週間）					事前：研修の準備 事後：研修報告書		演習	
14	インターンシップ実施後の報告書提出					事前：研修報告書のまとめ 事後：研修報告書の訂正		演習	
15	成果報告会					事前：研修報告書の仕上げ 事後：報告会の反省		演習	
教本： 1. 『はじめてのインターンシップ』（アルテスパブリッシング） 2. 『内定獲得のメソッド インターンシップ』（マイナビ）									
参考文献： 成績評価の方法、評価基準： 実習（60%）、事前事後の活動（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： プレ社会人としてのモラルを求めるので、1回目は必ず出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	AI 実践プログラミング (Practical AI Programming)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	山本 美紀								
履 修 条 件	前提科目	特にない。							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、人工知能（AI：Artificial Intelligence）の歴史的背景を踏まえ、近年、AI プログラミングの開発で最も広く使用されている Python 言語の基礎知識を学び、AI で代表される機械学習モデルの構築手法を習得します。また、実践的なプログラミングの体験を通して、プログラミング的思考力の向上を目指します。									
授業目標： ① AI(人工知能)と機械学習の種類について説明できる。 ② Python を用いて基本的なアルゴリズムのプログラミングができる。 ③ 機械学習の仕組みを理解し、問題解決のためのプログラミングができる。 ④ プログラムで、データベースを操作することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 AI(人工知能)と機械学習、機械学習の種類について学ぶ。				事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク（10分） 講義（80分）	
2	Python とはどんな言語か、Python の開発環境を構築する。 サンプルプログラムを作成し、実行する。				事前：Python と開発環境について下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義（45分） 演習（45分）	
3	Python の基礎(1)変数とデータ型について学ぶ。				事前：Chapter 3を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
4	Python の基礎(2)コレクションについて学ぶ。				事前：Chapter 4を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
5	Python の基礎(3)条件分岐／繰り返しについて学ぶ。				事前：Chapter 5を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
6	Python の基礎(4)関数について学ぶ。				事前：Chapter 6を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
7	Python の基礎(5)オブジェクトについて学ぶ。				事前：Chapter 7を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
8	Python の基礎(6)モジュールとパッケージについて学ぶ。				事前：Chapter 10を読む 事後：演習問題			講義・演習（60分） 小テスト（30分）	
9	Python の基礎(7)ファイルの読み書きについて学ぶ。				事前：Chapter 11を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
10	Python による機械学習(1)機械学習の準備・手順について学ぶ。				事前：Chapter 13の1を読む 事後：期末課題			講義（45分） 演習（45分）	
11	Python による機械学習(2)教師あり学習について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
12	Python による機械学習(3)教師なし学習について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
13	Python による機械学習(4)データベースの操作について学ぶ。				事前：Chapter 15の1を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
14	Python による機械学習(5)Web プログラミングについて学ぶ。				事前：Chapter15の2を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義（30分） 演習（60分）	
15	まとめと学びの振り返りを行う。 注目されている AI の技術についてトピックを紹介する。				事前：学習ポートフォリオを整理する 事後：学びの振り返りを行う			講義（60分） グループワーク（30分）	
教本： 松浦健一郎・司ゆき『Python [完全] 入門』SBクリエイティブ ISBN：978-4-815607647					参考文献： 授業内で参考文献、Web サイト等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等）：60％、小テスト：10％、期末課題：30％で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： プログラミング上達のコツは、完成を期待してバグを見つけ、バグを修正すること（対話）を楽しむことです。相手はコンピュータなので、コンピュータが理解して正しく動作するプログラムを書くことを心がけましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	AI とビジネスモデル（AI and Business Model）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、ビジネスにおいて収益を上げる仕組みは、インターネット、モバイル環境などのICT、ビッグデータ、AIなどの技術の進化により、多様化、変化が加速している。本講義では、AIを中心とした最新の技術動向の概要を学ぶとともに、ビジネスの構造と収益を向上させる仕組みの観点から、ビジネスを分析する基礎技術とその活用法を、講義、演習、プレゼンテーション、反転授業により学ぶ。									
授業目標： AIを中心とした技術の進化がビジネスに与える影響を考慮して、ビジネスの構造を理解し、収益を向上させる仕組みの作り方を理解することを目的とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ビジネスモデル理解の準備Ⅰ シラバスの説明とロジカルシンキングについて学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	ビジネスモデル理解の準備Ⅱ ビジネス分析のためのフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
3	ビジネスに影響を与える技術動向Ⅰ ICT、DX（デジタルトランスフォーメーション）について					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
4	ビジネスに影響を与える技術動向Ⅱ ビッグデータ、AIの概要とビジネスへの影響について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
5	ビジネスモデルとは ビジネスモデルの基礎知識について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：講義内容と課題を復習する		講義60分 演習30分	
6	ビジネスモデルの紹介1 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
7	ビジネスモデルの紹介2 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
8	ビジネスモデルの紹介3 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
9	ビジネスモデルの紹介4 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
10	ビジネスモデルの紹介5 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
11	ビジネスモデルの紹介6 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
12	ビジネスモデルの紹介7 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
13	ビジネスモデルの紹介8 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
14	ビジネスモデルの作り方 ビジネスモデルの基本的な考え方と作成方法について学ぶ					事前：提案するビジネス領域の調査 事後：提案モデルを検討する		講義60分 演習30分	
15	最終課題の発表とまとめ 各自の最終課題の検討結果のプレゼンテーションとまとめ					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義10分 プレゼン80分	
教本： この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一気に学べる、¥1,760									
参考文献： 講義内で指示する									
成績評価の方法、評価基準： レポート課題・プレゼンテーション等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	AI 入門（Introduction to Artificial Intelligence）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 本講義では、人工知能(AI：Artificial Intelligence)の全体像とその基礎技術を理解するとともに、AIがどのような対象に活用され、またビジネス領域にどのような影響を与えるかを、講義、演習、ディスカッションを通じて理解する。									
授業目標： 人工知能の全体像とその基礎技術を理解することにより、既存の適用事例における効果や課題を分析・理解できる能力、新たな対象やビジネス領域への適用の可能性を検討できる能力の修得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、人工知能概説					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	人工知能の歴史					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
3	AI 技術1 機械学習					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
4	AI 技術2 ニューラルネットワーク					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
5	AI 技術3 ディープラーニング					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
6	AI 技術4 教師あり学習と教師なし学習					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
7	人工知能活用対象1 画像認識、音声認識					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
8	人工知能活用対象2 自然言語処理、その他の学習対象					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
9	人工知能のビジネス活用事例と課題1					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
10	人工知能のビジネス活用事例と課題2					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
11	人工知能のビジネス活用事例と課題3					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
12	人工知能のビジネス活用事例と課題4					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
13	人工知能のビジネス活用事例と課題5					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
14	人工知能の活用による課題、倫理					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
15	最新動向とまとめ					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。挨拶から始め、身の回りの物や国籍、数字、色などの英語の基本表現力を身につけます。									
授業目標： ①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って応対ができる。 ④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1：New friends（自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中での be 動詞の使い方）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：挨拶表現の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
2	Unit 1：New friends（仕事や都市名について話す、Yes と No で答える質問文及び応答文）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
3	Unit 2：People and places（国籍や出身地について話す、場所を尋ねる疑問文の会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：国名の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
4	Unit 2：People and places（電話番号を正しく伝える、電話番号やメールアドレスを尋ねる表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：数字の発音を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
5	Unit 2：People and places（家族と数字の説明、Who～や How old～を使った疑問文の会話）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：家族の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
6	Unit 3：What's that?（身近な物について話す、a と an の使い分け、複数形を使った会話）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：身近な物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
7	Unit 3：What's that?（服装や色について話す、所有代名詞を使った会話）グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：服装や色の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
8	Unit 4：Daily life（電車、バスなど移動手段について話す、時間について尋ねる会話）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所と時の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
9	Unit 4：Daily life（毎日のスケジュールについて話す Yes と No で答える質問文）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：予定の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
10	Unit 5：Free time（メールや音楽などの習慣について話す、頻度について話す表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
11	Unit 5：Free time（買い物の表現について話す、値段を尋ねる表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：買い物時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
12	Unit 5：Free time（自由時間の使い方について尋ねる、What, Who, When などを使った疑問文）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：定型質問文を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
13	Unit 6：Work and play（多様な職業名について話す、What などの疑問文に does を加えた表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業名の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
14	Unit 6：Work and play（できること、できないことについて話す、Can を使って能力について尋ねる）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：能力の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
15	Unit 6：Work and play（できること、できないことについて話す、様々な職業について話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：仕事関連表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
教本：参考文献： Four Corners 1 (Cambridge)									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他	特になし							
授業概要： 中学・高校の基礎的英語を強化、補足します。文法の基礎、初歩リスニング、ライティングを通じて、総合的英語能力のアップを図ります。									
授業目標： 1. 英文法、語彙、リスニング、ライティングの基礎学力を向上させる。 2. 平易な英語を正確に読み取り、身近な事柄について表現できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			事前：特になし 事後：授業の復習			講義・対話		
2	Unit 1：Welcome to Japan			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
3	Unit 2：That Sounds like Fun			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
4	Unit 3：We Leave on Friday Morning			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
5	Unit 4：You Know a Lot About Trains			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
6	Unit 5：I Didn't Want to Leave			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
7	Unit 6：You're Working Late			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
8	Unit 7：I'm Sure He'll Understand			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
9	Unit 8：I'll Remember That			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
10	Unit 9：Hiro Forgot			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
11	Unit 10：How Have You Been?			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
12	Unit 11：While They're Here			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
13	Unit 12：How Was Tennis?			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
14	Unit 13：What Do you Mean?			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
15	Unit 14：Well, What Are You Wating For?			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
教本：参考文獻： Robert Hickling 臼倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）、¥1,900。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 授業では、中学・高校英語の基礎的能力を再確認し、復習します。高校で使用した英語文法書を片手に復習すれば、より正確に基礎を定着させることができます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 会話、文法、リーディングからなるテキストを使用します。英語の基礎的なスキルを学び直し、いわゆる学校文法の理解を確認する授業です。学生が英語を使う機会をできるだけ多くするために、ペア・ワーク、グループワーク、ゲームなども取り入れます。									
授業目標： 英語コミュニケーションの基礎レベル、Common European Framework of Reference A2に達することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1 Geting Up 現在時制と be 動詞					事前：p.14 事後：writing p.17		タスク実践 60分 演習 30分	
2	Unit 2 Breakfast Time 現在時制：一般動詞					事前：p.20 事後：writing p.23		タスク実践 60分 演習 30分	
3	Unit 3 Getting Ready for School 名詞					事前：p.26 事後：writing p.29		タスク実践 60分 演習 30分	
4	Unit 4 First Class of the Day 代名詞					事前：p.32 事後：writing p.35		タスク実践 60分 演習 30分	
5	Unit 5 Lunchtime 前置詞					事前：p.38 事後：writing p.41		タスク実践 60分 演習 30分	
6	Unit 6 Shopping WH 疑問文					事前：p.44 事後：writing p.47		タスク実践 60分 演習 30分	
7	Unit 7 Getting Lost 過去時制：be 動詞と一般動詞					事前：p.50 事後：writing p.53		タスク実践 60分 演習 30分	
8	Unit 8 In the Museum 現在進行形と過去進行形					事前：p.56 事後：writing p.59		タスク実践 60分 演習 30分	
9	Unit 9 At a Café 未来時制：will と be going to					事前：p.62 事後：writing p.65		タスク実践 60分 演習 30分	
10	Unit 10 Part-Time Job 現在完了形					事前：p.68 事後：writing p.71		タスク実践 60分 演習 30分	
11	Unit 11 After Work 助動詞					事前：p.74 事後：writing p.77		タスク実践 60分 演習 30分	
12	Unit 12 Housework 不定詞と動名詞					事前：p.80 事後：writing p.83		タスク実践 60分 演習 30分	
13	Unit 13 Free Time at Home 比較級と最上級					事前：p.86 事後：writing p.89		タスク実践 60分 演習 30分	
14	Unit 14 The Weekend 接続詞					事前：p.92 事後：writing p.95		タスク実践 60分 演習 30分	
15	Unit 15 Morning Workout 受動態					事前：p.98 事後：writing p.101		タスク実践 60分 演習 30分	
教本： English Day! R. Hickling 金星堂 ￥1,900+税					参考文献： How English Works M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press				
成績評価の方法、評価基準： 英語統一テストの評価50%、並びに担当教員による評価50%を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅱ (English II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当し、各項目で必要な表現の説明を最小限に行い、使える表現の発話を繰り返すことで、生徒が能動的に英語での発話に参加できるように促します。食事や道案内などの会話表現及び過去形、進行形などの英語文法の基本表現を学びます。									
授業目標： ①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って応対ができる。 ④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 7：Food（食べ物とその量について話す、some と any 【可算名詞と不可算名詞】の使い分け）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：食べ物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
2	Unit 7：Food（料理と頻度について話す、毎日、週 1 回などの頻度について話す）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
3	Unit 8：In the neighborhood（道案内の表現を覚える、会話の中での場所の前置詞の使い分け表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所の前置詞を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
4	Unit 8：In the neighborhood（観光施設の場所を尋ねる、Turn left/左に曲がる等の表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：道案内の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
5	Unit 8：In the neighborhood（道案内の情報を尋ねる、There is/are を使った表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所や時刻の確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
6	Unit 9：What's are you doing?（動作表現の動詞を覚える、ing を使った現在進行形の表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：前置詞の使い方を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
7	Unit 9：What's are you doing?（興味のあることについての表現、疑問詞を使い現在進行形で尋ねる）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：近況表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
8	Unit 10：Past experiences（過去の出来事について話す、規則動詞の過去形を使った表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：過去形の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
9	Unit 10：Past experiences（不規則動詞を使い出来事を説明する、不規則動詞の過去形を使った表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：不規則動詞の確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
10	Unit 11：Getting away（感情表現について話す、be 動詞の過去形を使った表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：感情表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
11	Unit 11：Getting away（ナチュラルに会話をつなげる、いいこと、悪いことについての表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：日常会話の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
12	Unit 11：Getting away（休暇時の表現について話す、Where などの質問文の過去形の表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：休暇時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
13	Unit 12：Time to celebrate（数詞と未来について話す、Be going to と Yes/No を使った文）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：数詞の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
14	Unit 12：Time to celebrate（パーティーの計画について話す、疑問文で現在進行形を使って話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：未来の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
15	Unit 12：Time to celebrate（世界各国の誕生日について話す、祝いに関することを話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：祝いの表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
教本： Four Corners 1 (Cambridge)					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅱ（EnglishⅡ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他	特になし							
授業概要： 時事英語を扱う教科書を使い、ビジネス、文化、環境、社会、科学、ファッションなどのテーマでニュース記事を読みます。英文記事を用いて、リスニング、グラマーチェック、日本語訳などを行います。ニュース記事を読むことによって、語彙力のアップにもつながります。									
授業目標： 1. ニュース英語にふれ、表現に慣れる。 2. 英文記事からさまざまなテーマを通じて世界の動向を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			事前：特になし 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
2	Chapter 1：Being Eco-Friendly with Edible Tableware			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
3	Chapter 2：In Search of More Fluid Styles of Work			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
4	Chapter 3：Cats Don't Look, but They Know			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
5	Chapter 4：Challenges of a High School Entrepreneur			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
6	Chapter 5：The Ties that Bind Hearts			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
7	Chapter 6：Insect Funerals			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
8	Chapter 7：The History of QR Codes			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
9	Chapter 8：Afghanistan's Bacha Posh			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
10	Chapter 9：Buy a Drink, Change the World			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
11	Chapter 10：Real × Unreal			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
12	Chapter 11：Tiny Organisms Play a Big Role			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
13	Chapter 12：Amateurs Beat Professionals at their Own Game			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
14	Chapter 13：Teaching Traditional Buddhism with Jokes			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
15	Chapter 14：Placing Hope in a Space Telescope			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
教本： 村尾純子他『Insights：世界を読むメディア英語入門2023』（金星堂、2023年）、¥1,900									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50％）ならびに試験期間中の英語テストによる評価（50％）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 日常的に、新聞やニュースに触れておくことをお勧めします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習										
授業科目(英文)	英語Ⅱ (EnglishⅡ)						科目分類	基礎科目											
担 当 教 員	廣 本 和 枝																		
履 修 条 件	前提科目	なし																	
	そ の 他	なし																	
授業概要： リーディングとリスニングを中心にしたTOEICテキストを用いて、様々な分野について頻度の高い語彙と表現を増やすことを目標とします。ペアワーク、グループワーク、ゲームなどを採り入れて、その課で学んだ英語を楽しく使う時間をできるだけ多くなるようにします。																			
授業目標： 英語コミュニケーションのCommon European Framework of Referance B1に到達することを目標とします。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養													
○			◎																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	Unit 1 The Weather					事前：Sound Check 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分											
2	Unit 2 Shopping					事前：Grammar Points 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分											
3	Unit 3 At the Airport					事前：Sound Check 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分											
4	Unit 4 Travel					事前：Grammar Points 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分											
5	Unit 5 Health					事前：Sound Check 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分											
6	Unit 6 Housing					事前：Grammar Points 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分											
7	Unit 7 Review Test A					事前：Review for Units1-6 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分											
8	Unit 8 Getting a Job					事前：Sound Check 事後：Handout		テスト 30分 発表 90分											
9	Unit 9 In the Workplace					事前：Grammar Points 事後：Task for Reiew		タスク実践 60分 演習 30分											
10	Unit 10 New Products					事前：Sound Check 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分											
11	Unit 11 Office Messages					事前：Grammar Points 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分											
12	Unit 12 Sales					事前：Sound Check 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分											
13	Unit 13 Ordering					事前：Grammar Points 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分											
14	Unit 14 Commuting					事前：Sound Check 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分											
15	Unit 15 Review Test B					事前：Review for Units 7-14 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分											
教本： Simply 500: Acing the TOEIC Listening & Reading Test 南雲堂 ￥1,800+税										参考文献： How English Works M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press									
成績評価の方法、評価基準： 英語統一テストの評価50%、並びに担当教員による評価50%を総合して評価します。																			
学生へのアドバイス： 授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅲ（English Ⅲ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語のさらなる向上を図ります。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニングの能力を習得するためのタスクを行います。									
授業目標： ①語彙を増やし、リーディング力を強化します。 ②文法・語法を確認し、英文を書いたり、聴くことによってライティング・リスニング力を習得します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方と評価方法についての説明 自己紹介					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習		解説30分、writing 40分、 発表20分	
2	Unit 1 I Love Junk Food.					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
3	Unit 1 I Love Junk Food.					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
4	Unit 2 A New Member					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
5	Unit 2 A New Member					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
6	Unit 3 Help!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
7	Unit 3 Helf!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
8	Unit 4 Pet! Pet! Pet!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
9	Unit 4 Pet! Pet! Pet!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
10	Unit 5 Have You Ever Seen a UFO!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
11	Unit 5 Have You Ever Seen a UFO?					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
12	Unit 6 Online Shopping					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
13	Unit 6 Online Shopping					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
14	Unit 7 Lucky Charm in a Soba Shop					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
15	Unit 7 Lucky Charm in a Soba Shop					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法30分、会話20分、 読解20分、writing20分	
教本：English Quest(Basic) 桐原書店									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 担当教員の評価（50%）、英語統一テストの結果（50%）で評価します。									
学生へのアドバイス： 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅲ（EnglishⅢ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。趣味、スポーツ、天気、体調、テレビ番組などについての英語応用表現力を身につけます。									
授業目標： ①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1：My interests（自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中での be 動詞の使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：挨拶表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
2	Unit 1：My interests（スポーツについて話す、会話の中での動詞の過去形の使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：スポーツの語彙		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
3	Unit 2：Descriptions（人物描写、What…like?を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：国名の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
4	Unit 2：Descriptions（分からないことを確かめる、質問に答える表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：he と she の発音		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
5	Unit 2：Descriptions（容姿の説明、What…look like?を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：家族の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
6	Unit 3：Rain or shine（天気について話す、会話の中での副詞の使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：身近な物の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
7	Unit 3：Rain or shine（室内でのアクティビティについて話す、Would you like todo?を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：服装や色の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
8	Unit 4：Life at home（家の中の物について話す、How many/much…を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所と時の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
9	Unit 4：Life at home（家の中での動作について話す、掃除などについて話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：予定の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
10	Unit 5：Health（身体について話す、動作について話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
11	Unit 5：Health（体調について話す、病院で体調を伝える会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：買い物時の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
12	Unit 5：Health（健康についての習慣について話す、Howoften…?を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：定型質問文を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
13	Unit 6：What's on TV?（テレビ番組を説明する、hope to…、want to…などを使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業名の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
14	Unit 6：What's on TV?（テレビについて話す、会話の中での現在進行形の使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：能力の表現を確認する		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
15	Unit 6：What's on TV?（テレビ番組について話す、好きな番組を説明する）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：TV 番組の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
教本： Four Corners 2（Cambridge）					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅲ (English Ⅲ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。									
授業目標： 人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。 特に、人の話を聞けるようになることを最重要項目とする。また、英語統一試験に向けて、単語力を養成することを次点の目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Punctuation（拘束課題）・学生発表についての説明（自由課題） （以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題）					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習90分	
2	Punctuation・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
3	8品詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
4	語句節・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
5	物質名詞と普通名詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
6	冠詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
7	5文型・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
8	Be動詞の意味・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
9	擬似補語・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
10	ネクサス関係・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
11	意味上の主語・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
12	There構文・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
13	新情報と旧情報・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
14	所有格・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
教本： 『英検準2級 出る順パス単』旺文社					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 担当教員の評価（50%）、英語統一テストの結果（50%）で評価します。									
学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。ノートを取ったらよく考えてみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅲ（EnglishⅢ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小倉 美知子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： テキストを用いて、reading、簡単な質疑応答と writing を行う。 演習の内容は、reading 20分、discussion 40分、writing 30分を基準とする。									
授業目標： 英語で読み、考え、話し、書く力をつける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Lesson 1：How to develop good study skills and habits					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
2	Lesson 2：How to stop procrastinating					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
3	Lesson 3：How to be a responsible traveler					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
4	Lesson 4：How to overcome your fear of flying					事前：Read the lessons 事後：Review		演習 90分	
5	Lesson 5：How to become your own “lie detector”					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
6	Lesson 6：How to learn a language online					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
7	Lesson 7：How to be a “smart” street photographer					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
8	Lesson 8：How to deal with difficult people					事前：Read the lessons 事後：Review		演習 90分	
9	Lesson 9：How to keep people awake in meetings					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
10	Lesson 10：How to be a good “tipper”					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
11	Lesson 11：How to avoid being tricked by ads					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
12	Lesson 12：How to be a millionaire					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
13	Lesson 13：How to find Mr. or Ms. right					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
14	Lesson 14：How to be more charismatic and cultured					事前：Read the lesson 事後：Review		演習 90分	
15	Lesson 15：How to do the right thing					事前：Read the lessons 事後：Review		演習 90分	
教本：参考文獻： How-To English: Advice for a Better Life									
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で考えよう！									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	倉 崎 祥 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： コミュニケーションや読解に必要とされる文法や表現力の基礎を固め、講読、速読等も通して活用度の高い英語表現を多く学習する。									
授 業 目 標： 状況や目的に応じて適切な英語表現ができる語学力の養成。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態		
1	導入授業（授業の概要や進め方、評価方法等の説明）				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
2	Be 動詞				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
3	一般動詞 対話練習				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
4	It's the Titanic!				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
5	進行形				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
6	未来形 対話練習				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
7	A Floating Palace				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
8	助動詞				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
9	名詞・冠詞 対話練習				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
10	Departure				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
11	代名詞				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
12	前置詞 対話練習				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
13	Iceberg				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
14	形容詞・副詞				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
15	まとめ（復習・その他）				事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
教 本： プリントを配布する。					参 考 文 献： 授業時に随時紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 英語への理解を深めるために、英英辞典も活用してください。									
オ ー フ ィ ス ア ヱ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅲ（EnglishⅢ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	中村 文男								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英語Ⅰ・Ⅱを踏まえ学生諸君の英語運用能力を高めるために、英語を声に出して読み、その英語を書きます。最後に、その英語を書き取り、自分の弱点を確認します。または、その英語を素早く読み概要を理解する授業です。									
授業目標： 臆せず、意思疎通を図ることができるように英語の運用能力を高めることが目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要等説明					事前：事後：復習		授業概要 50分授業内容の要点 40分	
2	Unit 1 Nice to Meet You					事前：Unit 1 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
3	Unit 2 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
4	Unit 3 This is my friend.					事前：Unit 3 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
5	Unit 4 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
6	Unit 5 Where Do People Hang Out?					事前：Unit 5 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
7	復習及び定着確認 範囲：Unit 1～Unit 5					事前：説明した復習要領で 事後：振り返り		英語で場面の表現確認	
8	Unit 6 I Went to That Place					事前：Unit 6 1 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
9	Unit 7 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
10	Unit 8 I Have a Question					事前：Unit 8 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
11	Unit 9 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
12	Unit 10 Would It Be Possible to Study This?					事前：Unit 10 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
13	Unit 11 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
14	Unit 12 I Have to Miss Next Class					事前：Unit12 1 の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
15	復習及び定着確認 範囲：Unit 6～Unit 12					事前：説明した復習要領で 事後：振り返り		英語で場面の表現確認	
教本：Encounters on Campuse（南雲堂） ￥1,900＋税									
参考文献：授業で適宜言及する。									
成績評価の方法、評価基準： 担当教員の評価（50％）、英語統一テストの結果（50％）で評価します。									
学生へのアドバイス： この授業は諸君の英語運用能力を伸ばすための授業です。必ず出席し課題提出する共に声を出し授業に参加することです。なお、上記授業計画は、授業の進捗状況等により変更する場合があります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語のさらなる向上を図ります。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニングの能力を習得するためのタスクを行います。									
授業目標： ①語彙を増やし、リーディング力を強化します。 ②文法・語法を確認し、英文を書いたり、聴くことによってライティングとリスニング力を習得します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 8 Fishing is Exciting!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
2	Unit 8 Fishing is Exciting!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
3	Unit 9 Angels in White					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
4	Unit 9 Angels in White					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
5	Unit 10 Robot					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
6	Unit 10 Robot					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
7	Unit 11 Band Concert					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
8	Unit 11 Band Concert					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
9	Unit 12 Let's Go to a Museum!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
10	Unit 12 Let's Go to a Museum!					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
11	Unit 13 Miss You.					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
12	Unit 13 Miss You.					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
13	Unit 14 Goodbye Linda.					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
14	Unit 14 Goodbye Linda.					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
15	Review					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
教本： English Quest(Basic) 桐原書店									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 担当教員の評価（50%）、英語統一テストの結果（50%）で評価します。									
学生へのアドバイス： 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。買物、観光地、経歴、食品などについての英語応用表現力を身につけます。									
授業目標： ①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 7：Shopping（軽い、薄いなど物の形状を説明する）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：形状表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
2	Unit 7：Shopping（簡単な値段交渉の会話、enough の会話の中での使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：買物表現の語彙		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
3	Unit 8：Fun in the city（世界の観光地を説明する、shoud と Can の会話の中での使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：観光地の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
4	Unit 8：Fun in the city（人に勧めたり、お勧めを聞いたりする表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：勧誘表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
5	Unit 8：Fun in the city（都市の特徴を説明する、比較級の最上級を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：都市の説明表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
6	Unit 9：People（職業、経歴を説明する、born を使った表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
7	Unit 9：People（確かである、不確かであることを伝える表現、会話の中で positive を使った表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：positive を使った表現		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
8	Unit 9：People（個人の経歴を伝える、過去の出来事を説明する表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
9	Unit 10：In a restaurant（食べ物について説明する、会話の中で、a、an、the などを使分ける）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：食べ物の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
10	Unit 10：In a restaurant（フルーツやドリンクについて説明する、会話の中で完了形を使い分ける）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：完了形の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
11	Unit 11：Entertainment（映画のタイプを説明する、会話の中で neither、either を使う表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：映画説明の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
12	Unit 11：Entertainment（音楽のタイプを説明する、会話の中で most of、some of などを使い分ける）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：音楽説明の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
13	Unit 12：Time for a change（目標について話す、Good News と Bad News について話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：目標を語る語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
14	Unit 12：Time for a change（将来について話す、会話の中で、will、may、might などを使って話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：将来の説明表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
15	Unit 12：Time for a change（将来について話す、インタビュー形式での会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：インタビュー用語確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
教本： Four Corners 2 (Cambridge)					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50％）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50％）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅳ（EnglishⅣ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。									
授業目標： 人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。 特に、人の話を聞けるようになることが最重要である。また、英語統一試験に向けて、単語力を養成することを次点の目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	不定代名詞 one（拘束課題）・学生発表に 関 しての説明（自由課題） （以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題）					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習90分	
2	Some と any ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
3	It について ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
4	形容詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
5	副詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
6	前置詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
7	等位接続詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
8	関係代名詞 who, which ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
9	関係副詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
10	接続詞 that, 関係詞 that ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
11	強調構文 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
12	強調表現 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
13	代用表現 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
14	取り扱っていない文法項目の紹介 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
教本： 『英検準2級 出る順パス単』旺文社					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 担当教員の評価（50%）、英語統一テストの結果（50%）で評価します。									
学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。ノートを取ったらよく考えてみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅳ（EnglishⅣ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小倉 美知子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： テキストを用いて reading、簡単な質疑応答、reading の題材に応じた paragraph writing を行う。 演習の内容は、reading 20分、discussion 40分、writing 30分を基準とする。									
授業目標： 英語で読み、考え、話し、書く力をつける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Chapter 1：I don't know what to believe					事前：Read the contents 事後：Review		演習 90分	
2	Chapter 2：It's a Hikikomori world					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
3	Chapter 3：Not just for fun					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
4	Chapter 4：See it while you can					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
5	Chapter 7：Fake burgers and electric gum					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
6	Chapter 9：Turn out the lights					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
7	Chapter 10：It's good to be grumpy					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
8	Chapter 11：A full working week					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
9	Chapter 12：Waste not, want not					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
10	Chapter 13：Try this					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
11	Chapter 15：Paying for information					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
12	Chapter 16：Your phone is a soldier					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
13	Chapter 18：It's a man's world					事前：Read the chapter 事後：Review		演習 90分	
14	Chapter 19：Changing perceptions					事前：Read all chapter 事後：Review		演習 90分	
15	Chapter 20：It's the law					事前：Read all chapter 事後：Review		演習 90分	
教本：Grand Tour: seeing the world									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で考えよう									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅳ (English Ⅳ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	倉 崎 祥 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： コミュニケーションや読解に必要とされる文法や表現力の基礎固め、講読、速読等も通して活用度の高い英語表現を多く学習する。									
授 業 目 標： 状況や目的に応じて、適切な英語表現ができる語学力の養成。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）			事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）			授 業 形 態		
1	導入授業			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
2	比較			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
3	命令文・感嘆文 対話練習			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
4	Lifeboat			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
5	接続詞			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
6	不定詞・動名詞 対話練習			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
7	The Miracle of Philip Aks			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
8	受動態・現在完了形			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
9	5 文型 対話練習			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
10	Mr. Smith's White Life			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
11	各種疑問文			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
12	It の特別用法 対話練習			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
13	Together until the End of Their Lives			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
14	関係代名詞			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
15	まとめ（復習・その他）			事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理			講義・解説 40分、問題練習・発表 30分、 まとめ 20分		
教 本： プリントを配布する。				参 考 文 献： 授業時に随時紹介する。					
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 英語学習への地道な継続的努力を期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	中村 文男								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英語Ⅰ・Ⅱを踏まえ学生諸君の英語運用能力を高めるために、英語を声に出して読み、その英語を書きます。最後に、その英語を書き取り、自分の弱点を確認します。または、その英語を素早く読み概要を理解する授業です。									
授業目標： 臆せず、意思疎通を図ることができるように英語の運用能力を高めることが目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 13 What Are You Doing on Sunday?					事前：Unit 13の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
2	Unit 14 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
3	Unit 15 What Should We Get?					事前：Unit 15の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
4	Unit 16 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
5	Unit 17 Yeah, I'll Give You That					事前：Unit 11 17下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
6	Unit 18 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
7	復習及び定着確認 範囲：Unit 13～Unit 18					事前：説明した復習要領で 事後：振り返り		英語で場面の表現確認	
8	Unit 19 Come on! I'll Help You					事前：Unit 19の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
9	Unit 20 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
10	Unit 21 What Should We Do?					事前：Unit 21の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
11	Unit 22 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
12	Unit 23 I Can Book the BBQ					事前：Unit 23の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
13	Unit 24 英字新聞 要約記事（外国の出来事について）					事前：ニュースを読む 事後：記事の内容確認		課題解答 20分授業要点 40分新聞理解 30分	
14	Unit 25 We're Ready to Roll					事前：Unit 25の下見 事後：日本語を英語に		課題解答 20分授業要点 40分書き取り 30分	
15	復習及び定着確認 範囲：Unit 19～Unit 25					事前：説明した復習要領で 事後：振り返り		英語で場面の表現確認	
教本： Encounters on Campuse（南雲堂） ￥1,900＋税					参考文献： 授業で適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 担当教員の評価（50%）、英語統一テストの結果（50%）で評価します。									
学生へのアドバイス： この授業は諸君の英語運用能力を伸ばすための授業です。必ず出席し課題提出する共に声を出し授業に参加することです。なお、上記授業計画は、授業の進捗状況等により変更する場合があります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	英語学概論 A（English Linguistics A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 音声・単語・文法・意味など、様々な観点から英語学について講義する。ひとつひとつのテーマが明確に分かれれば、英語学が狙いとしているものが見えてくると考える。									
授業目標： 受講者は英語学的な観点から物事が分析できるようになることを目標とする。英語学とは何かを理解することがテーマである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introductionを行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
2	音声学について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
3	音韻論について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
4	形態論（1） 接辞及び語幹について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
5	形態論（2） かばん語などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
6	形態論（3） その他の形態論について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
7	統語論（1） 学校文法について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
8	統語論（2） 構造言語学について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
9	統語論（3） 変形生成文法などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
10	統語論（4） コーパス言語学などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
11	意味論（1） 日本語訳をするにあたってについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
12	意味論（2） 意味の多様性について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
13	語用論（1） 語用論とは何かについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
14	語用論（2） 実際に語用論を用いて考えるについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
15	形態論・統語論・意味論・語用論の総まとめについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
教本： 『新 えいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社					参考文献： 授業中に適宜資料を配布及び紹介する。特にBBC Newsなどのインターネットを用いて無料で学習できる教材をいくつか紹介し、利用報告をしてもらう。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（80%）、毎回の授業後のレポート等（20%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	英語学概論B（English Linguistics B）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	岡部 佑人									
履 修 条 件	前提科目	特になし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 英語学とは何かということを説明する。そして、その英語学的な視点から物事を分析できるようになる。そのためには、ノートをしっかり取ることが重要です。										
授業目標： 受講者は英語学的な観点から物事が分析できるようになる。英語学概論Bでは、特に、英語史に関する内容を理解し、日々の英語学習に生かせるようにすることを目標とする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Introductionを行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
2	世界の英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
3	英語史（1）古英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
4	英語史（2）中英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
5	英語史（3）近代英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
6	英語史（4）現代英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
7	英語の語源についてについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
8	学生発表(1)を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分		
9	現代の英語学について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
10	社会言語学について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
11	学生発表(2)を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分		
12	コンピュータと英語学（1）BNC corpusについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
13	コンピュータと英語学（2）COHA, COCA などについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
14	学生発表（3）を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分		
15	世界の英語・英語史・現代の英語・社会言語学の総まとめについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
教本： 『新 えいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社										参考文献： 授業中に適宜資料を配布及び紹介する。特に、Dictionary.comなどのインターネットを用いて無料で学習できる教材をいくつか紹介し、実際に利用報告をしてもらう。
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（80%）、毎回の授業の最後のレポート等（20%）で総合評価する。										
学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語スピーキングⅠ（English SpeakingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 本授業では、英語をなるべく多く発言してもらうことを目標とする。多くの演習をこなすことを重視するため、正確性は二の次とする。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。 2. 数多くの英語を話すこと 3. 相手の英語の発音を聞き取れるようになること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（授業時の注意、成績評価についての確認を行う）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	Vacation（休暇について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	Growing Up（生まれ育ちについて、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	Entertainment（娯楽、趣味について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	Food and Drink（食べ物、飲み物について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	Travel and Tourism（旅行と観光について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	Education（教育、教育制度について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	総まとめ					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	Fashion（ファッション、衣類について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	Living Abroad（海外生活について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	Working Life（仕事について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	Health（健康について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	Changing Times（時代の変遷について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	Student Life（学生生活について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	Speech Testを行う。					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： World Interviews Improving Listening and Speaking Skills（成美堂）									
参考文献： 適宜、授業内で紹介する。									
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、Speech Test（50%）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を話してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語スピーキングⅡ（English Speaking Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 本授業では、英語をなるべく多く発言してもらうことを目標とする。多くの演習をこなすことを重視するため、正確性は二の次とする。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと〔やり取り・発表〕ができる。 2. 数多くの英語を話すこと 3. 相手の英語の発音を聞き取れるようになること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（授業時の注意、成績評価についての確認を行う）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	The Arts（芸術について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	Shopping（買い物について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	Friends（友人、親友について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	Sport（運動、スポーツについて、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	Politics（政治問題について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	Animals（生物、動物について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	総まとめ					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	Money Matters（経済、お金について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	Cultural Identity（文化について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	Family（家族について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	Youth Culture（若者文化について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	Dating and Marriage（デート、結婚について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	Crime（犯罪について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	Speech Testを行う。					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本：インタビューで学ぶ世界の英語 World Interviews Improving Listening and Speaking Skills（成美堂）					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、Speech Test（50%）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を話してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語通訳Ⅰ（English TranslationⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用初級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。 英語ニュースの通訳では、比較的ゆっくりした速度の英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。									
授業目標： 旅行等における日常会話の逐次英語通訳能力（英日・日英）および英語ニュースの逐次通訳能力（英日）の修得。レベルは実用初級レベル。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction：授業の進め方と授業概要の説明（説明・質疑応答）					事前：— 事後：授業概要の復習		演習（説明 45分、質疑応答 45分）	
2	Conversation（英日・日英逐次通訳） Riding a Train English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
3	Conversation（英日・日英逐次通訳） Riding a Tin English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
4	Conversation（英日・日英逐次通訳） Taking an Airplane English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
5	Conversation（英日・日英逐次通訳） At a Ryokan English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
6	Conversation（英日・日英逐次通訳） At a Ryokan English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
7	Conversation（英日・日英逐次通訳） At a Hotel English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
8	Conversation（英日・日英逐次通訳） At a Tourist Info Center English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
9	Conversation（英日・日英逐次通訳） At a Tourist Info Center English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
10	Conversation（英日・日英逐次通訳） At a Travel Agency 小テスト（60分、範囲は1～10で学習したところ）					事前：前回内容の復習 事後：小テスト自己採点・復習		演習（ロールプレイ 30分）小テスト 60分	
11	Conversation（英日・日英逐次通訳） At a Travel Agency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
12	Conversation（英日・日英逐次通訳） Sightseeing English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
13	Conversation（英日・日英逐次通訳） Sightseeing English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
14	Conversation（英日・日英逐次通訳） Sightseeing English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
15	Summary：重要なポイントの解説と全体のまとめ（解説・質疑応答）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（解説 45分、質疑応答 45分）	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語通訳Ⅱ（English TranslationⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用中級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。 英語ニュースの通訳では、ナチュラルスピードに近い英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。									
授業目標： 旅行、ビジネス等における会話の逐次英語通訳能力（英日・日英）および英語ニュースの逐次通訳能力（英日）の修得。レベルは実用中級レベル。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction：授業の進め方と授業概要の説明（説明・質疑応答）					事前：— 事後：授業概要の復習		演習（説明 45分、質疑応答 45分）	
2	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
3	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
4	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
5	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
6	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
7	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
8	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
9	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
10	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office 小テスト（60分、範囲は1～10で学習したところ）					事前：前回内容の復習 事後：小テスト自己採点・復習		演習（ロールプレイ 30分）小テスト 60分	
11	Conversation（英日・日英逐次通訳）On the Street English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
12	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
13	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
14	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、英日通訳実践 45分）	
15	Summary：重要なポイントの解説と全体のまとめ（解説・質疑応答）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（解説 45分、質疑応答 45分）	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語プレゼンテーション A (English Presentation A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	基礎的なスピーキング力があることを前提とします。英語スピーキングⅠ、Ⅱの履修を推奨します。							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。									
授業目標： ①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Getting ready（プレゼンの基本事項の確認）、Self-Introductions（自己紹介）：プレゼンテーションの概要の学習。問題点を検討。					事前：プレゼン語彙を調べる 事後：プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	Unit 1 A good friend（パーソナリティや興味のあることなどについて話す）：クラスメートと各自のプロフィールについて話す。					事前：自己紹介の語彙の予習 事後：自己紹介の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	Unit 1 A good friend（パーソナリティや興味のあることなどについて話す）：興味のあることを相手に説明する。					事前：興味、関心語彙の予習 事後：興味、関心語彙を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	Unit 1 A good friend（プレゼンテーションの始め方、終わり方）：プレゼンの定型表現を学習する。					事前：プレゼン定型文の予習 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	Unit 1 A good friend（アイコンタクト）：効果的なプレゼンテーションのためのスキルを学習する。					事前：プレゼンスキルの予習 事後：アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	Unit 1 A good friend（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	Unit 2 A favourite place（好きな場所について話す）：場所を説明する語彙を学習する。					事前：好きな場所を考える 事後：学習した語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	Unit 2 A favourite place（プレゼンテーションの始め方、終わり方）：聴衆が持てるように終わる表現を学習する。					事前：導入と締め表現の予習 事後：締めの表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	Unit 2 A favourite place（ジェスチャー、ボディーランゲージ）：姿勢や手の位置の良い例と悪い例を学習する。					事前：プレゼンスキルの予習 事後：ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
10	Unit 2 A favourite place（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
11	Unit 3 A prize possession（自分の宝物について話す）：自慢の物を相手に説明する。					事前：所有物の説明の予習 事後：所有物の説明の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
12	Unit 3 A prize possession（どのような物なのか説明する）：色、形、模様、大きさ、材質などを説明する。					事前：物の説明表現の予習 事後：材質などの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
13	Unit 3 A prize possession（物を見せながら説明する）：相手に興味を持たせながら説明する。					事前：Show-and-tellの学習 事後：Show-and-tellの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	Unit 3 A prize possession（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	Final Presentations（グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答）					事前：模擬プレゼンの準備 事後：後期授業の総復習		講義 10分、ディスカッション 20分、発表 60分	
教本： Present Yourself 1, 2 nd edition（Cambridge 出版）									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 平常点（60％）、課題およびパフォーマンス（40％）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： 人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語プレゼンテーション B (English Presentation B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	基礎的なスピーキング力があることを前提とします。英語スピーキングⅠ、Ⅱの履修を推奨します。							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。									
授業目標： ①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Getting ready（プレゼンの基本事項の確認）、Self-Introductions（自己紹介）：プレゼンテーションの概要の学習。問題点を検討。					事前：プレゼン語彙を調べる 事後：プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	Unit 4 A memorable experience（自分の経験したことを話す）：感動したこと、恐ろしかったこと、驚いたことなどを説明する。					事前：感情の語彙を調べる 事後：経験の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	Unit 4 A memorable experience（物事を順序立てて話す）：連続した場面を順序立てて説明する。					事前：物語の説明語彙の予習 事後：順序の表現を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	Unit 4 A memorable experience（始め方、終わり方など）：“pass the mike”/効果的なプレゼンの終わり方					事前：プレゼン定型文の予習 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	Unit 4 A memorable experience（声の大きさに注意する）：声の大きさや抑揚に気をつけて話す。					事前：プレゼンスキルの予習 事後：アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	Unit 4 A memorable experience（ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	Unit 5 I'll show you how（技術や能力について話す）：個人の技術力や才能とその有益性について話す。					事前：自分のスキルを考える 事後：スキルの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	Unit 5 I'll show you how（料理手順を説明する）：動作や変化を順序立てて説明する。					事前：動作表現の予習 事後：説明語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	Unit 5 I'll show you how（ジェスチャーを的確に説明する）：動作をしながら、その動きを説明する。					事前：動作説明表現の予習 事後：ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
10	Unit 5 I'll show you how（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
11	Unit 6 Screen magic（映画やテレビ番組について説明する）：画面の情報を説明する。					事前：映画の説明表現の予習 事後：情報の説明表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
12	Unit 6 Screen magic（聴衆に映画をお勧めして終わる）：効果的な終わり方を学習する。					事前：映画の推奨表現の理解 事後：終わり方の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
13	Unit 6 Screen magic（文の中での抑揚や間を意識して発表する）：効果的な話し方を学習する。					事前：抑揚と間の効果の理解 事後：抑揚と間の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	Unit 6 Screen magic（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	Final Presentations（グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答）					事前：模擬プレゼンの準備 事後：後期授業の総復習		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
教本： Present Yourself 1, 2 nd edition（Cambridge 出版）									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 平常点（60％）、課題およびパフォーマンス（40％）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： 人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	英語文学Ⅰ（English LiteratureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 授業では有名な児童文学の作品を講読し内容理解を図ると同時に英語圏の文化や歴史について学びます。各作品には練習問題として、内容理解のための固有名詞の確認、本文の内容を理解するための設問、本文で使用された英語表現を使った英作文の問題などが付しており、様々な英語表現の習得、作品の考察、多様な文化の理解を図っていきます。									
授業目標： イギリス、アメリカを代表する作家の作品の講読・鑑賞を通して、読解力を向上させ、多様な英語表現を学ぶことを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：なし 事後：授業の復習をする		解説	
2	Chapter 1 <i>Huckleberry Finn</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
3	Chapter 1 <i>Huckleberry Finn</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
4	Chapter 2 <i>The Call of the Wild</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
5	Chapter 2 <i>The Call of the Wild</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
6	Chpater 3 <i>Anne of Green Gables</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
7	Chapter 3 <i>Anne of Green Gables</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
8	Chapter 4 <i>Treasure Island</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
9	Review (Chapter 1～Chapter 3)					事前：復習 事後：授業の復習をする		解説、質疑応答	
10	Chapter 4 <i>Treasure Island</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
11	Chapter 5 <i>Winnie-the-Pooh</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
12	Chapter 5 <i>Winnie-the-Pooh</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
13	Chapter 6 <i>Peter Pan</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
14	Chapter 6 <i>Peter Pan</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
15	Review (Chapter 4～Chapter 6)					事前：復習 事後：授業の復習をする		解説 質疑応答	
教本：					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	英語文学Ⅱ（English LiteratureⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 授業では有名な児童文学作品を講読し内容理解を図ると同時に英語圏の文化や歴史について学びます。各作品には練習問題として、内容理解のための固有名詞確認、本文の内容を理解するための設問、本文で使用された英語表現を使った英作文の問題が付してあり、様々な英語表現の習得、作品の考察、多様な文化の理解を図っていきます。									
授業目標： イギリス、アメリカを代表する作家の作品の講読・鑑賞を通して、読解力を向上させ、多様な英語表現を学ぶことを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：なし 事後：授業の復習をする		解説	
2	Chapter 7 <i>Peter Rabbit</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
3	Chapter 7 <i>Peter Rabbit</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
4	Chapter 8 <i>The Snowman/Father Christmas</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
5	Chapter 8 <i>The Snowman/Father Christmas</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
6	Chapter 9 <i>James and the Giant Peach/Matilda</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
7	Chapter 9 <i>James and the Giant Peach/Matilda</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
8	Review (Chapter 7～Chapter 9)					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		解説、質疑応答	
9	Chapter 10 <i>Paddington</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
10	Chapter 10 <i>Paddington</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
11	Chapter 11 <i>The Borrowers</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
12	Chapter 11 <i>The Borrowers</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
13	Chapter 12 <i>Thomas the Tank Engine</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
14	Chapter 12 <i>Thomas the Tank Engine</i>					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
15	Review (Chapter 10～Chapter 12)					事前：復習 事後：授業の復習をする		解説、質疑応答	
教本：					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語ライティングⅠ（English WritingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	人主語（英語における主語が人である事例について、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	無生物主語（英語における主語が物や事柄である事例について、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	時制（英語の時制の中でも特に現在形と過去形について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	冠詞（1）（不定冠詞について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	冠詞（2）（定冠詞について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	可算名詞（可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	不可算名詞（不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	形容詞（1）（形容詞が名詞を修飾する場合について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	形容詞（2）（形容詞が主語に対しての補語になる場合について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	副詞：（形容詞以外の修飾語として、副詞を理解する）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	時制の一致（時制の一致について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	二つの品詞性（二つの品詞性について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	その他、取り扱わなかった文法項目の概観					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	総まとめ（内容の概観を行う）					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス（50％）、定期試験（50％）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を書いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語ライティングⅡ（English Writing Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	名詞構文（1）（名詞構文の中でも基本的な用法である原因を示す事例を理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	名詞構文（2）（名詞構文の中でも時や条件を表す事例を理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	助動詞（1）（助動詞の根源的用法について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	助動詞（2）（助動詞の認識的用法について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	不定詞（不定詞の本質について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	動名詞（動名詞の本質について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	不可算名詞（不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	否定（1）（否定について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	否定（2）（否定のなかでも含意否定や部分否定の例も含め、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	受動態（能動態と受動態の両方を書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	比較（同等比較・比較級・最上級について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	代名詞 It（Itについて理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	副詞（副詞の種類について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	総まとめ（内容の概観を行う）					事前：授業内容で英作文 事後：		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス（50％）、定期試験（50％）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を書いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リスニングⅠ（English ListeningⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がついてきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検準二級程度の英語を聞き取れるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction, BBC News について					事前：なし 事後：音声の復習		演習 90分	
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
9	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション		演習 90分	
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
15	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし		演習 90分	
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、定期試験（50%）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を精読してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語リスニングⅡ（English ListeningⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がついてきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検二級程度の英語を聞き取れるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction, BBC News について					事前：なし 事後：音声の復習		演習 90分	
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
9	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション		演習 90分	
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
15	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし		演習 90分	
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、定期試験（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語を精読してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語リーディングⅠ（English ReadingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 英文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 英文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英文コーパスについて知る。					事前：なし 事後：英文の予習		演習 90分	
2	「85歳の老人」（以下、括弧内はテキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
3	「オルダーニー牛の反芻」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
4	「ボジニー青年」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
5	「カタツムリ」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
6	「お住まいはどちらですか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
7	「アイリーニを幸せに」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
8	「30年前に買ったワイン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
9	「黄金時代の詩」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
10	「思いの丈、泣かせてあげよう」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
11	「コテージピアノ」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
12	「人を深く愛したことがありますか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
13	「見た目は穏やか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
14	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
15	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を丁寧に読むようにして下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語リーディングⅡ（English ReadingⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 英語文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。									
授業目標： 1. 受講生は、様々なジャンルの英文を読み、目的に応じて情報や考え方を整理することができる。 2. 英文文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）						事前・事後学習（学習課題）		授業形態
1	英文コーパスについて知る。						事前：なし 事後：英文の予習		演習 90分
2	「お見せできる一番の花」（以下、テキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
3	「あの犬は引っ掻く」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
4	「そのうち、なんとかなるでしょう」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
5	「さて、いくらにしようか？」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
6	「ロンドンへ行く用事」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
7	「スマイレの香り」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
8	「充実して過ごす」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
9	「三本か四本か」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
10	「ピアノのレッスン」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
11	「カルメン」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
12	「命」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
13	「4時が過ぎていた」の部分を精読する。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
14	総まとめおよび質問受付を行う。						事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分
15	総まとめおよび質問受付を行う。						事前：英文の予習確認 事後：なし		演習 90分
教本： なし					参考文献： 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を丁寧に読むようにして下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	エコツーリズム (Ecotourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： エコツーリズムの理念を踏まえて、国内外で実施されているエコツーリズムを検証することにより、自然の保護と観光活用のあり方について修得する。									
授業目標： ①エコツーリズムの理念と構造について修得する。 ②観光における環境保全・地域資源保護と利用のあり方について修得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	エコツーリズム論の構造：エコツーリズムの学問的体系について修得する。				事前：エコツーリズムの意味について理解する。 事後：エコツーリズム論の体系を確認する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
2	エコツーリズムの概念：エコツーリズムの発祥、理念、経緯等について修得する。				事前：エコツーリズムの歴史的経緯について考究する。 事後：エコツーリズムの理念について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
3	エコツーリズムの目的と意義：エコツーリズムが目指す地域振興の目的と意義、保護と活用のあり方等について修得する。				事前：エコツーリズムと地域のあり方について考究する。 事後：自然資源の保護と活用について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
4	エコツーリズムの特徴及び類型化：エコツーリズムの他のツーリズムとの差異、エコツーリズムの種類等について修得する。				事前：エコツーリズムの事例を収集する。 事後：エコツーリズムの分類を整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
5	エコツーリズムと施策・法律：エコツーリズム推進法等関連法規及び国等行政における関連施策の内容について修得する。				事前：エコツーリズムに関する国の施策を考究する。 事後：政府エコツーリズムの施策について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
6	エコツーリズムと計画：エコツアー及び受入体制の整備等エコツーリズム実現のためのプロセス及び計画要素について修得する。				事前：“計画”について考究する。 事後：エコツーリズム計画のプロセスを整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
7	エコツアーと商品化：エコツアーの種類、実施内容及び受入体制と地域波及効果について修得する。				事前：エコツアーの既存商品について調査する。 事後：エコツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
8	自然体験プログラム：自然の保護と活用を基本とした自然体験プログラムについて考察する。 ・観光における自然体験プログラムのあり方 ・主として子供を対象としたネイチャーゲーム				事前：体験型観光について考究する。 事後：自然体験プログラムを実践する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
9	エコツーリズムと関連施設：自然保護と利用を踏まえた地域における施設整備及び自然系展示見学施設、エコロッジ、エコパーク等の理念について修得する。				事前：エコの意味について考究する。 事後：自然との去勢について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
10	屋久島とエコツーリズム：屋久島のエコツーリズムの現状、屋久島公認ガイドなどエコツーリズムガイドの役割、制度等について修得する。				事前：地域ガイドの種類について考究する。 事後：エコツーリズムガイドの必要性について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
11	小笠原とエコツーリズム：小笠原におけるエコツーリズムの仕組みと旅行商品特性等について修得する。				事前：小笠原の観光の現状について考究する。 事後：自然と観光のあるべき姿について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
12	エコツーリズム関連ツアー：ジオ・ツーリズム、里山観光など自然との人間とのかかわりをテーマとしたツアーの検証により、エコツーリズムの今後を考える。				事前：エコ関連ツアーの既存商品について調査する。 事後：エコ関連ツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
13	ニュージーランドとエコツーリズム：ミルフォードトラックを始めニュージーランドのエコツーリズムの現状、パッケージ型旅行商品の構造について修得する。				事前：ニュージーランドの観光特性について考究する。 事後：パッケージ型旅行商品の利点について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
14	ネパールとエコツーリズム：高地トレッキングなどエコツーリズムの現状、地域開発と環境変化等について修得する。				事前：ネパールの観光について考究する。 事後：ネパールにおける観光開発の功罪について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
15	【ワークショップ】これからのエコツーリズム：今までの講義をもとにこれからのエコツーリズムのあり方について議論する。				事前：講義の総復習 事後：ワークショップのまとめ			復習 20分 ワークショップ 70分	
教本：テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献：適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験及び平常点を加味する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	SDGs と人口（Sustainable Development Goals and Population）							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者達は、2030年までに達成すべき17個の目標と169のターゲットである「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択に合意しました。人口学は、それ以前の15年間の開発目標であったミレニアム開発目標（MDGs）の時代から、開発目標アプローチの根幹たる指標のためのデータ構築・収集・分析において中心的な役割を担ってきました。本講義では、人口学の視点から、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。									
授業目標： 人口学のアプローチを通して、持続可能な開発目標（SDGs）を通じて、日本および世界全体が達成べきするための取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）				授業形態
1	SDGs に向けて				事前：なし 事後：第2章（佐藤・松浦）				講義 90分
2	経済成長・発展とその決定要因				事前：Chapter 3 and 4(Sachs) 事後：授業の復習				講義 90分
3	貧困と不平等				事前：Chapter 5(Sachs) 事後：授業の復習				講義 90分
4	国際機関の取り組み				事前：Handout(国際連合システム) 事後：課題				講義 90分
5	人口と経済				事前：第7章（佐藤・松浦） 事後：授業の復習				講義 90分
6	移民と難民				事前：兄玉「統計からみる国際移民の動向」 事後：授業の復習				講義 90分
7	教育と労働				事前：Chapter 8(Sachs) 事後：授業の復習				講義 90分
8	こどもと女性				事前：第5章（佐藤・松浦） 事後：課題				講義 90分
9	グローバル・ヘルスの挑戦：MDGs 下での GH				事前：Ch. 9(Sachs) 事後：国連ミレニアム開発目標報告 2015				講義 90分
10	グローバル・ヘルスの挑戦：SDGs 下での GH				事前：兄玉「国連持続可能な開発目標3（SDG3）ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成状況と課題」 事後：授業の復習				講義 90分
11	グローバル・ヘルスの挑戦：新型コロナウイルスと世界				事前：コロナ禍のニュースや生活を振り返る。 事後：授業の復習				講義 90分
12	国際観光				事前：Handbout 事後：授業の復習				講義 90分
13	国際防災協力とレジリエントな都市				事前：Ch. 11(Sachs) 事後：授業の復習				講義 90分
14	SDGs と データ				事前: 第9章（佐藤・松浦） 事後：授業の復習				講義 90分
15	まとめ				事前：なし 事後：課題				講義 90分
教本： 佐藤・松浦（編）「SDGsの人口学」（人口学ライブラリー）原書房，2023					参考文献： Sachs, J. “The Age of Sustainable Development” Columbia University Press, New York, USA; 2015				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 新型コロナウイルスの蔓延下により、講義中心のカリキュラム編成になっています。状況が許せば、例年通り、ゲスト講師を招いたり、JICA 横浜での研修を行います。講義はスライドを中心に行います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	SDGsの政治経済学（Political Economy of Sustainable Development Goals）							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、2030 年における SDGs の達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。									
授業目標： ①持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 ②国連機関とのパートナーシップ等、松蔭大学が持っているリソースを利用して、学生として大学を通し、どのように SDGs に貢献していけるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 ③海外での大学院進学や国際開発のキャリアを歩んでいきたい学生に必要な情報とネットワークを作る機会を与えること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	前期の復習					事前：Handout 事後：授業の復習		講義 90分	
2	人権					事前：なし 事後：授業の復習		講義 90分	
3	産業と技術革新					事前：Chapter 3(Sachs) 事後：授業の復習		講義 90分	
4	公開講義：地球温暖化の現状と苫小牧 CCS 実証試験について					事前：事前資料 事後：授業の復習		講義 90分	
5	国際貿易					事前：なし 事後：授業の復習		講義 90分	
6	多国籍企業と BOP 戦略					事前：なし 事後：授業の復習		講義 90分	
7	ビジネスと人権					事前：「ビジネスと人権に関する指導原則」を読む 事後：授業の復習		講義 90分	
8	法と制度					事前：なし 事後：授業の復習		講義 90分	
9	戦争・紛争・テロ					事前：Handout 事後：授業の復習		講義 90分	
10	経済制裁					事前：Handout 事後：授業の復習		講義 90分	
11	水と衛生					事前：第 6 章（佐藤・松浦） 事後：授業の復習		講義 90分	
12	地球温暖化					事前：第 8 章（佐藤・松浦）・Ch. 12(Sachs) 事後：授業の復習		講義 90分	
13	生物多様性					事前：Ch. 13(Sachs) 事後：授業の復習		講義 90分	
14	循環経済					事前：Handout 事後：授業の復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：なし 事後：課題		講義 90分	
教本： 佐藤・松浦「SDGs の人口学」（人口学ライブラリー）原書房，2023									
参考文献： Sachs, J. “The Age of Sustainable Development” Columbia University Press, New York, USA; 2015									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 新型コロナウイルスの蔓延下により、講義中心のカリキュラム編成になっています。状況が許せば、例年通り、ゲスト講師を招いたり、JICA 横浜での研修を行います。講義はスライドを中心に行います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	応用データ処理（Data Processing for Data Science）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用可能なノートパソコンを用意すること							
授業概要： ビッグデータや人工知能（AI）技術の活用領域は急速に拡大しており、デジタル社会の基礎知識として、データサイエンスや AI に関する知識、技術を習得することが望まれている。本講義では、データサイエンス関連科目を学ぶために必要な基礎知識であるデータ処理技術の習得を目指す。本講義では、サンプルデータによる演習課題を通してデータ処理技術とその活用法を学ぶ。									
授業目標： データの基本処理、グラフ化を始めとする可視化処理、データの加工処理、関数やプログラミングによる算出処理など、データ処理・分析のために必要となる表計算ソフトの基本操作から高度な活用法までの習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、データ処理・分析の概説					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
3	数式と基本関数の利用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
4	絶対／相対参照を活用したデータ算出処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
5	グラフの作成の基本操作と書式変更処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
6	分析目的に適した作表・グラフ化、書式変更処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
7	複数のデータシートを活用したデータ処理法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
8	高度な関数の利用によるデータ管理表の作成					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
9	表形式による高度なデータの可視化・分析					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
10	分析目的に適したデータの抽出・加工処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
11	クロス集計によるデータ分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
12	分析目的に適した高度なグラフ化処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
13	プログラミング（マクロ）によるデータ分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
14	公開データを活用したデータ加工・分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
15	まとめ、総合演習問題					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
教本： 講義初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 演習課題・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	沖縄文化研究（Okinawan Studies）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： この授業の目的は、とすれば観光やエキゾチズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのほとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれません。しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多面から考えてみましょう。									
授業目標： ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	沖縄文化の範囲					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
2	沖縄文化のステレオタイプと実際					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	沖縄文化のステレオタイプと実際 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	文化人類学からみた沖縄文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	沖縄の社会と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	沖縄の社会と文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	始祖求心的文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	始祖求心的文化の現代版					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	民俗文化の創造					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	沖縄文化と「境界」					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	祖霊観と他界観					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	沖縄と防衛問題					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	沖縄はパラダイスか					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	沖縄文化研究Ⅰ（Okinawan StudiesⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： この授業の目的は、ともしれば観光やエキゾチズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのほとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれません。しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多面から考えてみましょう。									
授業目標： ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	沖縄文化の範囲					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
2	沖縄文化のステレオタイプと実際					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	沖縄文化のステレオタイプと実際 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	文化人類学からみた沖縄文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	沖縄の社会と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	沖縄の社会と文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	始祖求心的文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	始祖求心的文化の現代版					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	民俗文化の創造					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	沖縄文化と「境界」					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	祖霊観と他界観					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	沖縄と防衛問題					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	沖縄はパラダイスか					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	沖縄文化研究Ⅱ（Okinawan StudiesⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	沖縄文化研究Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 沖縄文化論Ⅰを受けて、後期ではその範囲を宮古地域に限定して考察します。防衛問題の議論によくみられる「本土－沖縄」という二分法では見えにくい沖縄の姿を、宮古地域を中心にすえることで違う見方ができるのではないだろうかという視点から授業を進めていきます。									
授業目標： 沖縄文化へのより深い理解									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	宮古文化と沖縄文化					事前：沖縄の島々を確認 事後：授業資料		講義 90分	
2	伊良部島の文化バリエーション					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	村落祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	シャーマニズム					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	世界観と歴史					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	民俗的小宇宙					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	本土文化と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	法と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	法と民俗文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	社会組織の変化：祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	社会組織の変化：家族					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	フィールド調査					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	フィールド調査 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	フィールド調査 3					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	沖縄文化史（Okinawan Studies）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	沖縄文化研究							
	そ の 他	なし							
授業概要： 沖縄文化研究を受けて、後期ではその範囲を宮古地域に限定して考察します。防衛問題の議論によくみられる「本土－沖縄」という二分法では見えにくい沖縄の姿を、宮古地域を中心にすえることで違う見方ができるのではないだろうかという視点から授業を進めていきます。									
授業目標： 沖縄文化へのより深い理解									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	宮古文化と沖縄文化					事前：沖縄の島々を確認 事後：授業資料		講義 90分	
2	伊良部島の文化バリエーション					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
3	村落祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	シャーマニズム					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
5	世界観と歴史					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
6	民俗的小宇宙					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	本土文化と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	法と民俗文化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	法と民俗文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	社会組織の変化：祭祀					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	社会組織の変化：家族					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	フィールド調査					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	フィールド調査 2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	フィールド調査 3					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	オペレーティングシステム (Operating System)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論、ネットワーク技術、プログラミング基礎							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： オペレーティングシステムの適用対象は、大型計算機やパソコンが主対象であったが、現在では、スマホ、家電製品、IoT 関連機器等、対象は拡大している。オペレーティングシステムを理解することは、プログラミング技術やシステム開発技術を学ぶ上での基礎知識として非常に重要である。講義、演習、グループディスカッションを通じてオペレーティングシステムの基礎技術を理解する。									
授業目標： オペレーティングシステムの主要な概念とその動作原理を理解することを目的とする。また、近年の利用環境の変化を考慮し、ネットワーク機能、セキュリティ機能、運用管理機能等も含めて、幅広く理解することを目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、オペレーティングシステムの役割					事前：シラバスを読む 事後：学習内容を復習する		講義	
2	ユーザインターフェース					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
3	プログラミングインターフェース					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
4	オペレーティングシステムの構成					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
5	入出力の制御					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
6	ファイルの管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
7	プロセスとその管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
8	多重プロセス					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
9	メモリの管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
10	仮想メモリ					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
11	仮想化					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
12	ネットワークの制御					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
13	セキュリティと信頼性					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
14	システムの運用管理					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
15	性能、標準化					事前：教科書の指定箇所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
教本：IT Text オペレーティングシステム 改定 2 版、野口、光来、品川、オーム社、¥3,080									
参考文献：講義内で指示する									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	音楽で遊ぶ（音楽表現）（Play with music）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 子どもの音楽活動を支える基礎的な技能としてピアノの演奏技術と実践力を養う。音楽の基礎的な知識（楽典）やソルフェージュ、保育現場での音楽表現活動の指導で求められる「弾き歌い」のためのピアノ伴奏法についても学ぶ。									
授業目標： 領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持ち、保育内容としての音楽表現活動を理解し実践する力を養う。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16 弾き歌い導入					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24 生活のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の主要三和音 教本 No.25～26 生活のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	ヘ長調の主要三和音 教本 No.27～32 春のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主要三和音 教本 No.33～38 春のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形 教本 No.39～42 夏のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43～46 夏のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48 秋のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54 秋のうたの弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55～58 冬のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	ヘ長調の音階 教本 No.59～61 冬のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62～67 行事のうた弾き歌い					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
教本：『教職課程のための大学ピアノ教本』大学音楽教育研究グループ、教育芸術社 『園の先生厳選！カンタンキレイなピアノ伴奏譜 保育のうた155』寺田 真由美、ひかりのくに 参考文献：なし。									
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	音楽表現（Musical expression）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 子どもの音楽活動を支える基礎的な技能としてピアノの演奏技術と実践力を養う。音楽の基礎的な知識（楽典）やソルフェージュ、保育現場での音楽表現活動の指導で求められる「弾き歌い」のためのピアノ伴奏法についても学ぶ。									
授業目標： 領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持ち、保育内容としての音楽表現活動を理解し実践する力を養う。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16 弾き歌い導入					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24 生活のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の主要三和音 教本 No.25～26 生活のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	ヘ長調の主要三和音 教本 No.27～32 春のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主要三和音 教本 No.33～38 春のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形 教本 No.39～42 夏のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43～46 夏のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48 秋のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54 秋のうたの弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55～58 冬のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	ヘ長調の音階 教本 No.59～61 冬のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62～67 行事のうた弾き歌い					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
教本：『教職課程のための大学ピアノ教本』大学音楽教育研究グループ、教育芸術社 『園の先生厳選！カンタンキレイなピアノ伴奏譜 保育のうた155』寺田 真由美、ひかりのくに 参考文献：なし。									
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音声学 (Phonetics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 英語の音声についてテキストを用いると同時に、それに伴うCDを聞きながら授業を進める。間違いやすい、あるいは難しい音声について実践練習をし、英語音の連結、脱落、弱化などの現象を理解するだけでなく、実際に練習を通して体得する。									
授業目標及びテーマ： 中学校や高等学校で正しく英語の音声指導ができる力をつけることが目標である。英語の音素、アクセント、リズム、イントネーションなどの特徴を確認することがテーマであり、日本語との比較の視点を取り入れて授業を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクションー本科目を学ぶ意義と授業全体の構成について説明を行う					事前：シラバスを確認する 事後：テキスト記入		演習 90分	
2	音の発声ー母音と子音の種類について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
3	英語のアクセントー音節と強勢、子音結合、句の強勢について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
4	英語のリズムについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
5	紛らわしい母音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
6	紛らわしい子音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
7	つながって聞こえる音（連結）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
8	変化して聞こえる音（同化）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
9	聞こえなくなる音（1）単語間の脱落について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
10	聞こえなくなる音（2）単語内の脱落・短縮形について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
11	英語のイントネーションのパターンについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
12	英語のイントネーションと文中のポーズについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
13	World Englishes について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
14	英語の数量表現の聞き取りについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
15	まとめと復習、音声実技試験を行う。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
教本： 『English Sounds, English Minds』（杉森幹彦、大塚朋美、杉森直樹、Paul Evans 金星堂）					参考文献： 授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 音声実技試験（50%）、小テスト（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語の音声をたくさん聴くようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									